



ユーザエージェントの設定プロセス

バージョン 2.5 のユーザエージェントを使用して最大 5 つの Microsoft Active Directory サーバからユーザログインデータを収集し、Management Center に送信するには、ユーザエージェントをインストールし、各 Management Center および Microsoft Active Directory サーバに接続して、全般的な設定を行う必要があります。詳細については、次の項を参照してください。

- [ユーザエージェントのセットアップ \(2-1 ページ\)](#)
- [Management Center 設定 \(2-3 ページ\)](#)
- [Active Directory サーバの設定 \(2-4 ページ\)](#)
- [ユーザエージェント コンピュータの設定 \(2-7 ページ\)](#)
- [ユーザエージェントのインストール \(2-21 ページ\)](#)
- [ユーザエージェントの設定 \(2-23 ページ\)](#)
- [ユーザエージェントのトラブルシューティング \(2-36 ページ\)](#)
- [バージョン 2.4 以降のユーザエージェントをバージョン 2.3 に置き換える \(2-43 ページ\)](#)

ユーザエージェントのセットアップ

ユーザエージェントは多段階の設定を行ってセットアップします。

ユーザエージェントをセットアップするには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** それぞれの Management Center を、以下を実行するように設定します。
 - エージェントをインストールするサーバの IP アドレスからのエージェント接続を許可する。
 - Active Directory オブジェクトまたはレルムを設定して有効にする。[ユーザエージェントに接続するためのバージョン 6.2.3 以降の Management Center の設定 \(2-3 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 2** Active Directory サーバは、Management Center と通信するユーザエージェントのイベントをログに記録するように構成します。詳細については、[Active Directory サーバの設定 \(2-4 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 3** ドメイン上の各コンピュータを、Windows Management Instrumentation (WMI) がドメインのファイアウォールを通過することを許可するように構成します。詳細については、[ドメイン コンピュータの設定 \(2-6 ページ\)](#) を参照してください。

- ステップ 4 エージェントをインストールするコンピュータに、前提条件となるプログラムをインストールします。Active Directory サーバに対するコンピュータの TCP/IP アクセスをセットアップします。詳細については、[ユーザエージェントのインストールに関するコンピュータの準備 \(2-7 ページ\)](#)を参照してください。
- ステップ 5 以前のユーザ エージェント インストールがあれば、必要に応じて構成設定を保持するためにエージェント データベースをバックアップします。詳細については、[ユーザ エージェント設定のバックアップ \(2-19 ページ\)](#)を参照してください。
- ステップ 6 エージェントが Active Directory サーバに接続するのに必要な権限を設定します。詳細については、以下を参照してください。
- [ドメイン ユーザへの限定的な特権の付与 \(概要\) \(2-10 ページ\)](#)
 - [ローカル ユーザへの特権の付与 \(2-10 ページ\)](#)
- ステップ 7 コンピュータにエージェントをインストールします。
- 詳細については、[ユーザ エージェントのインストール \(2-21 ページ\)](#)を参照してください。
 - 必要に応じて複数のユーザ エージェントをインストールするには、[複数のユーザ エージェントの展開 \(1-5 ページ\)](#)を参照してください。
- ステップ 8 1 つ以上の Microsoft Active Directory サーバへの接続を設定します。
- ステップ 9 (オプション) エージェントのポーリング間隔と最大ポーリング時間を設定します。詳細については、[ユーザ エージェントの Active Directory サーバ接続の設定 \(2-24 ページ\)](#)を参照してください。
- ステップ 10 FMC でユーザエージェントのアイデンティティソースを設定する前に、ユーザエージェントのホストを解決するために使用可能な DNS サーバがあることを確認します。
- DNS を正しく設定しないと、FMC がそのホスト名を使用してユーザエージェントに接続できなくなります。
- ステップ 11 最大で 5 つの Management Center への接続を設定します。詳細については、[ユーザ エージェントの Management Center 接続の設定 \(2-27 ページ\)](#)を参照してください。
- ステップ 12 (オプション) ログインおよびログオフ データのポーリングから除外するユーザ名と IP アドレスのリストを設定します。詳細については、以下を参照してください。
- [ユーザ エージェントの除外ユーザ名設定の構成 \(2-29 ページ\)](#)
 - [ユーザ エージェントの除外アドレス設定の構成 \(2-30 ページ\)](#)
- ステップ 13 (オプション) 次のようにエージェント ログギング設定を構成します。詳細については、[ユーザ エージェントのログギング設定の構成 \(2-31 ページ\)](#)を参照してください。
- ステップ 14 (オプション) エージェント名の設定、サービスの開始と停止、およびサービスの現在のステータスの表示を行います。詳細については、[ユーザ エージェントの全般的な設定の構成 \(2-33 ページ\)](#)を参照してください。
- ステップ 15 [保存 (Save)] をクリックして、ユーザ エージェントの設定を保存します。



注意

Cisco TAC からの指示がないかぎり、エージェント メンテナンスの設定は変更しないでください。

Management Center 設定

ここでは、Management Center を準備してユーザ エージェントからユーザ データを受け取る方法を説明します。



注

ユーザ エージェントのバージョン 2.4 は、Firepower Management Center バージョン 6.2.3 以降でのみ動作します。ユーザ エージェントと Firepower Management Center のバージョンに問題がある場合は、[ユーザ エージェントのトラブルシューティング \(2-36 ページ\)](#) の説明に従ってバージョン 2.4 のユーザ エージェントをバージョン 2.3 のユーザ エージェントに置き換えることができます。

ユーザエージェントに接続するためのバージョン 6.2.3 以降の Management Center の設定

バージョン 2.5 のユーザエージェントを使用してログインデータをバージョン 6.2.3 以降の Management Center に送信するには、以下のすべてを設定する必要があります。

- 各 Management Center を、サーバへの接続を予定しているエージェントからの接続を許可するように設定します。その接続によって、エージェントは Management Center とのセキュアな接続を確立し、データを送信できるようになります。

この接続の確立に関する詳細については、バージョン 6.x の『*Firepower Management Center Configuration Guide*』の「Configuring a User Agent Connection」を参照してください。

- ユーザアクセス制御を実装するには、組織内の少なくとも 1 つの Microsoft Active Directory サーバと Management Center との間に接続を設定し、有効にしておく必要があります。バージョン 6.x では、これをレルムと呼んでいます。

レルムには、サーバの接続設定と認証フィルタ設定が含まれています。接続のユーザダウンロード設定で、アクセス制御ルールで使用可能なユーザとグループを指定します。この設定の詳細については、バージョン 6.x の『*Firepower Management Center Configuration Guide*』の「Creating a Realm」を参照してください。

Active Directory サーバの設定

ここでは、Active Directory のセキュリティ ログが有効になっていることを確認し、Active Directory サーバがログインデータをそれらのログに記録できるようにする方法を説明します。

ロギング用の Active Directory サーバの設定

Active Directory サーバがログインデータをログに記録していることを確認するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1 Active Directory サーバで、[スタート(Start)] > [すべてのプログラム(All Programs)] > [管理ツール(Administrative Tools)] > [イベント ビューア(Event Viewer)] をクリックします。
 - ステップ 2 [Windows ログ(Windows Logs)] > [セキュリティ(Security)] をクリックします。
ロギングが有効になっている場合は、セキュリティ ログが表示されます。ロギングが無効になっている場合は、セキュリティ ロギングの有効化について、MSDN の「[How to configure Active Directory and LDS diagnostic event logging](#)」を参照してください。
 - ステップ 3 WMI が Active Directory サーバ上のファイアウォールを通過することを許可します。Active Directory サーバが Windows Server 2008 または Windows Server 2012 を実行している場合、詳細については、MSDN の「[Setting up a Remote WMI Connection](#)」を参照してください。
-

Windows 2012 Server でログオン/ログオフ イベントの監査を有効にするには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1 [スタート(Start)] > [管理ツール(Administrative Tools)] > [グループポリシー管理(Group Policy Management)] をクリックします。
 - ステップ 2 ナビゲーション ウィンドウで、[フォレスト: ご使用のホスト名(Forest: YourForestName)] を展開し、[ドメイン(Domains)] > **ご使用のホスト名** > [グループ ポリシー オブジェクト(Group Policy Objects)] を展開します。
 - ステップ 3 [デフォルトのドメイン ポリシー(Default Domain Policy)] を右クリックし、[編集(Edit)] を選択します。
 - ステップ 4 [コンピュータの構成(Computer Configuration)] > [ポリシー(Policies)] > [Windows の設定(Windows Settings)] > [セキュリティの設定(Security Settings)] > [監査ポリシーの詳細な構成(Advanced Audit Policy Configuration)] > [監査ポリシー(Audit Policies)] > [ログオン/ログオフ(Logon/Logoff)] を参照します。
 - ステップ 5 右側のウィンドウで、[監査ログオフ(Audit Logoff)] をダブルクリックします。
 - ステップ 6 [ログオフプロパティの編集(Edit Logoff Properties)] ダイアログ ボックスで、[次の監査イベントの設定(Configure the following audit events)] および [成功(Success)] をオンにします。
 - ステップ 7 [OK] をクリック
 - ステップ 8 [監査ログオン(Audit Logon)] に同じタスクを繰り返します。
-



注

ユーザーエージェントは、Windows セキュリティ ログ イベント 4634 により識別されたログオフ イベントを報告しません。ユーザーエージェントは、ドメイン コンピュータを照会してログオフするために、リモートの Windows Management Instrumentation (WMI) 呼び出しを使用します。

アイドルセッションタイムアウトの有効化

ここでは、必要に応じてグループ ポリシーのアイドルセッションタイムアウトを有効にする方法について説明します。これにより、エージェントがホスト上の複数セッションによる余分なログインを検出して報告するのを防ぐことができます。

ターミナル サービス (2008 以前のバージョンの Windows Server) を使用すると、複数のユーザが 1 台のサーバに同時にログインできます。アイドルセッションタイムアウトを有効にすることにより、サーバにログインした複数セッションのインスタンスを減らすことができます。

リモート デスクトップ サービス (Windows Server バージョン 2012 以降) では、リモートでワークステーションにログインできるユーザは一度に 1 人だけです。ただし、ユーザがログアウトせずにリモート デスクトップセッションを切断すると、そのセッションはアクティブなままになります。ユーザ入力なくなると、アクティブなセッションは最終的にアイドル状態になります。

あるセッションがアイドル状態のときに別のユーザがリモート デスクトップ サービスを使用してワークステーションにログインすると、2 つのログインが **Management Center** に報告される可能性があります。アイドルセッションタイムアウトを有効にすると、それらのセッションは定義されたアイドルタイムアウト期間後に終了するため、ホスト上で複数のリモートセッションが実行されなくなります。

Citrix セッションは、リモート デスクトップ サービスセッションと同様に機能します。1 台のコンピュータ上で複数の Citrix ユーザセッションを同時に実行することができます。アイドルセッションタイムアウトを有効にすると、ホスト上で複数の Citrix セッションが実行されなくなり、余分なログインの報告が減少します。

設定するセッションタイムアウトによっては、1 台のコンピュータに複数のセッションがログインしている状況が生じる可能性があります。

ターミナルサービスのセッションタイムアウトの有効化

このセクションは、2008 までの Windows Server バージョンに適用されます。

ターミナルサービスのセッションタイムアウトを有効にするには、Windows Server 2008 または Windows Server 2012 に対して、アイドル状態のターミナルサービスのセッションタイムアウトと、切断されたターミナルサービスのセッションタイムアウトのグループ ポリシー設定を更新します。これについては Microsoft TechNet の「[Configure Timeout and Reconnection Settings for Terminal Services Sessions](#)」で説明されています。

グループ ポリシー オブジェクト マネージャのパスは次のとおりです。

```
Computer Configuration\Administrative Templates\Windows Components\Terminal Services\Terminal Server\Session Time Limits
```

```
User Configuration\Administrative Templates\Windows Components\Terminal Services\Terminal Server\Session Time Limits
```

アイドルセッションや切断されたセッションが次のログオフチェックの前にタイムアウトできるように、セッションタイムアウトをユーザーエージェントのログオフチェックの頻度より短く設定してください。アイドルセッションまたは切断されたセッションのタイムアウトが必須

の場合は、ユーザエージェントのログオフチェックの頻度をセッションタイムアウトよりも長く設定してください。ログオフチェックの頻度の設定方法の詳細については、[ユーザエージェントの全般的な設定の構成\(2-33 ページ\)](#)を参照してください。

設定が完了したら、[ユーザエージェント コンピュータの設定\(2-7 ページ\)](#)に進みます。

リモートデスクトップのセッションタイムアウトの有効化

このセクションは、Windows Server バージョン 2012 以降に適用されます。

リモート デスクトップのセッションタイムアウトを有効にするには、アイドル状態のリモートセッションタイムアウトおよび切断されたセッションタイムアウトのグループポリシー設定を更新します。セッションタイムアウトの有効化の詳細については、Microsoft TechNet の「[Session Time Limits](#)」を参照してください。

アイドルセッションおよび切断されたセッションが次のログオフチェックの前にタイムアウトできるように、リモートデスクトップのタイムアウトはユーザエージェントのログオフチェックの頻度より短く設定してください。アイドルセッションまたは切断されたセッションのタイムアウトが必須の場合は、ユーザエージェントのログオフチェックの頻度をリモートデスクトップのタイムアウトよりも長く設定してください。ログオフチェックの頻度の設定方法の詳細については、[ユーザエージェントの全般的な設定の構成\(2-33 ページ\)](#)を参照してください。

グループポリシー オブジェクト エディタのパスは次のとおりです。

```
User Configuration\Policies\Administrative Templates\Windows Components\Remote Desktop Services\Remote Desktop Session Host\Session Time Limits
```

設定が完了したら、[ユーザエージェント コンピュータの設定\(2-7 ページ\)](#)に進みます。

Citrix セッションタイムアウトの有効化

Citrix セッションタイムアウトを有効にするには、Citrix 社のマニュアルを参照してください (<http://support.citrix.com/>)。

ドメインコンピュータの設定

ユーザエージェントがログオフ イベントを Management Center に送信できるようにするには、WMI トラフィックがドメインに接続するすべてのコンピュータ上でファイアウォールを通過することを許可する必要があります。

次の選択肢があります。

- Windows ファイアウォールを使用して、ドメインの [WMI](#) を許可します。
- グループポリシー オブジェクト (GPO) を使用してファイアウォール ポリシーを構成します。これについては、Microsoft TechNet の [Windows Firewall with Advanced Security Deployment Guide](#) などの資料で説明されています。

ユーザーエージェントコンピュータの設定

Management Center と Active Directory サーバの準備が整ったら、エージェントをインストールして設定するコンピュータを準備します。



注

ユーザーエージェントが Active Directory ドメイン内のすべてのコンピュータのログインとログオフの可視性を提供するには、すべてのドメインコントローラでユーザーエージェントを設定する必要があります。たとえば、Active Directory ドメインに5つのドメインコントローラがあり、それぞれが異なるホストにインストールされている場合は、ユーザーエージェントソフトウェアを各ドメインコントローラに1つずつ、計5回インストールして設定する必要があります。

ユーザーエージェントのインストールに関するコンピュータの準備

ユーザーエージェントは、ここで説明する要件を満たしている Windows コンピュータにインストールできます。

コンピュータの設定

コンピュータは次のいずれかになります。

- (推奨)Active Directory サーバにアクセスできる信頼ネットワーク上のコンピュータ。このコンピュータは、ネットワーク管理者のみが使用できるようにする必要があります。
このインストール方法は最も安全であるので推奨します。
- Active Directory サーバ。

ユーザエージェントのインストールの前提条件

Windows コンピュータは、次の前提条件を満たしている必要があります。

- コンピュータで、Windows Vista、Windows 7、Windows 8、Windows Server 2008、または Windows Server 2012 が実行されていること。セキュリティ上の理由から、ユーザエージェントは Active Directory サーバ コンピュータではなく、ドメイン コンピュータにインストールすることをお勧めします。
- コンピュータに Microsoft .NET Framework バージョン 4.0 クライアント プロファイルおよび Microsoft SQL Server Compact (SQL CE) バージョン 4.0 がインストールされていること。
 - Microsoft .NET Framework バージョン 4.0 クライアント プロファイル再頒布可能パッケージは、Microsoft のダウンロードサイトから入手できます(dotNetFx40_Client_x86_x64.exe)。
 - SQL Server Compact 4 は、Microsoft のダウンロードサイトから入手できます



注 .NET Framework がない場合は、エージェント実行可能ファイル(setup.exe)を開始すると、該当ファイルをダウンロードするためのプロンプトが表示されます。詳細については、[ユーザエージェントのインストール\(2-21 ページ\)](#)を参照してください。

- ユーザエージェントを実行するユーザを作成します。これについては、[ユーザエージェントのユーザの作成\(2-9 ページ\)](#)で説明しています。
- コンピュータが、監視対象の Active Directory サーバに TCP/IP でアクセスでき、Active Directory サーバと同じバージョンのインターネット プロトコルを使用していること。エージェントが Active Directory サーバをリアルタイムでモニタリングしている場合は、ログインデータを取得できるように、コンピュータの TCP/IP アクセスを常に有効にしておく必要があります。



注 ユーザエージェントを Windows Server 2003 またはそれ以前のオペレーティング システムにインストールする場合、ユーザエージェントは Active Directory コンピュータからのリアルタイム統計を収集できません。

- コンピュータが、データと IPv4 アドレスの報告先となる Management Center に TCP/IP でアクセスできること。
- IPv6 アドレスが設定されたホストからのログオフを検出する場合は IPv6 アドレスがコンピュータに設定されていて、IPv4 アドレスが設定されたホストからのログオフを検出する場合は IPv4 アドレスがコンピュータに設定されていること。
- コンピュータにレガシー エージェントまたはバージョン 2.x エージェントがまだインストールされていないこと。これらのエージェントは自動的にアンインストールされないため、既存のエージェントをアンインストールするには、Windows コントロール パネルの [プログラムの追加と削除 (Add/Remove Programs)] を使用します。



注意

ユーザエージェントの旧バージョンがインストールされている場合は、構成設定を保持するために、データベースをバックアップする必要があります。

[ユーザエージェントのユーザの作成\(2-9 ページ\)](#)に進みます。

ユーザエージェントのユーザの作成

必要最小限の権限でユーザエージェントを実行できるようにするには、ユーザエージェントのユーザアカウントを作成する必要があります。

- 以前のバージョンのユーザエージェントをアップグレードする場合には、この手順は必要ありません。
その場合には、[ユーザエージェント設定のバックアップ\(2-19 ページ\)](#)を参照してください。
- Active Directory サーバとは別のコンピュータ上でユーザエージェントを実行するには、ユーザはドメイン ユーザである必要があります。
- Active Directory サーバ上でユーザエージェントを実行するには、ユーザはローカル アカウントである必要があります。

新規ユーザを作成するには、次を実行します。

-
- ステップ 1 Active Directory サーバに Domain Admins グループのメンバーとしてログインします。
 - ステップ 2 Active Directory サーバでユーザエージェントを実行するには、ローカル ユーザアカウントを作成します(このアカウントは Domain Admins グループに属している必要がありますが、ユーザは管理者グループに属している必要はありません)。このセクションの残りの手順をスキップして、[ユーザ権限の付与\(2-9 ページ\)](#)に進みます。
 - ステップ 3 ドメイン ユーザを作成してユーザエージェントを別のコンピュータで実行できるようにするには、[スタート(Start)]>[Active Directory ユーザとコンピュータ(Active Directory Users and Computers)]をクリックします。
 - ステップ 4 左側のウィンドウで、ユーザを追加するドメインとフォルダを展開します。
 - ステップ 5 ユーザを追加するフォルダを右クリックします。
 - ステップ 6 ポップアップメニューから、[新規(New)]>[ユーザ(User)]をクリックします。
 - ステップ 7 画面の指示に従って、ドメイン ユーザを作成し、そのユーザに強力なパスワードを付与します。



注意

セキュリティ上の理由から、必ずこのユーザアカウントはネットワーク管理者だけが知ることができるようにします。

ユーザ権限の付与

ここでは、次の可能性について説明します。

- Active Directory サーバ上の Domain Admins グループにローカル ユーザを追加する。
この方法は簡単ですが、安全性が低いためにお勧めしません。[ローカル ユーザへの特権の付与\(2-10 ページ\)](#)を参照してください。
- ドメイン ユーザにユーザエージェントを実行する最小限の特権を付与する。[ドメイン ユーザへの限定的な特権の付与\(概要\)\(2-10 ページ\)](#)を参照してください。

ローカルユーザーへの特権の付与

Active Directory サーバでユーザーエージェントを実行するには、Domain Admins グループにユーザーを追加する必要があります。ユーザーエージェントをインストールしやすくするために、必要に応じて管理者グループにもユーザーを追加できます。

ドメインユーザーへの限定的な特権の付与(概要)

ここでは、ユーザーエージェントを実行する最小限の特権をドメインユーザーに付与するために必要な作業の概要を示します。例については、[ドメインユーザーに限定的な特権を付与する\(ステップバイステップの例\)\(2-10 ページ\)](#)を参照してください。

ドメインユーザーに限定的な特権を付与するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** Active Directory サーバに Domain Admins グループのメンバーとしてログインします。
- ステップ 2** ユーザーエージェント ユーザーを次のグループに追加します。
- 分散 COM ユーザー
 - イベントログリーダー
- ステップ 3** Windows Management Instrumentation (WMI) コントロール コンソールを使用して、ユーザーに Root\CIMV2 ノードに対する次の権限を付与します(これについては [Microsoft TechNet](#) で説明されています)。
- メソッドの実行
 - アカウントの有効化
 - リモートの有効化
 - セキュリティの読み取り
- ステップ 4** ユーザーエージェントが Active Directory サーバのリアルタイム処理を使用できるようにします。
- Windows ファイアウォール ルールに対するグループ ポリシー オブジェクト (GPO) セキュリティ ポリシーを作成して、リモート プロシージャ コール (RPC) エンドポイント マッパー サービスへのインバウンド ネットワーク トラフィックが許可されるようにします(これについては [Microsoft TechNet](#) で説明されています)。
 - Windows ファイアウォール ルールに対する GPO セキュリティ ポリシーを作成して、ランダム RPC ポート上のインバウンド トラフィックが許可されるようにします(これについては [Microsoft TechNet](#) で説明されています)。
- リアルタイム処理の詳細については、[ユーザーエージェントの Active Directory サーバ接続の設定\(2-24 ページ\)](#)を参照してください。
- ステップ 5** `gupdate /force` コマンドまたは同等のポリシーを使用して、グループ ポリシー オブジェクト (GPO) を更新します。
-

ドメインユーザーに限定的な特権を付与する(ステップバイステップの例)

ここでは、ユーザーエージェントを実行する最小限の特権をドメインユーザーに付与するステップバイステップの例を示します。

このセクションの手順に従うには、ご使用のシステムが次を使用していることが前提です。

- Windows Server 2012

- ユーザエージェント ユーザ名は limited.ua。
- ドメイン名は sesame.example.com。
- ユーザエージェントが1つの Active Directory サーバと1つの Firepower Management Center に接続している。
- ユーザエージェントが Active Directory サーバからイベントをリアルタイムで処理している。

ユーザへの Windows Management Instrumentation (WMI) 権限の付与

ここでは、ドメイン ユーザ WMI 特権を Active Directory サーバ上の Root > CIMV2 ノードに付与して、ユーザがドメイン コンピュータからのログオフを取得できるようにする方法について説明します。

ドメインユーザに WMI 権限を付与するには、次の手順に従います。

-
- ステップ 1 Active Directory サーバに Domain Admins グループのメンバーとしてログインします。
 - ステップ 2 ユーザ エージェント ユーザを次のグループに追加します。
 - 分散 COM ユーザ
 - イベントログリーダー
 - ステップ 3 [開始(Start)] をクリックして、wimngmt.msc を入力します。
 - ステップ 4 [コンソール ルート (Console Root)] > [WMI コントロール(ローカル) (WMI Control (Local))] を右クリックし、[プロパティ (Properties)] をクリックします。
 - ステップ 5 [WMI コントロール(ローカル)のプロパティ (WMI Control (Local) Properties)] ダイアログボックスで、[セキュリティ (Security)] タブをクリックします。
 - ステップ 6 [ルート (Root)] > [CIMV2] をクリックします。
 - ステップ 7 [セキュリティ (Security)] をクリックします。
 - ステップ 8 [ROOT\CIMV2 のセキュリティ (Security for ROOT\CIMV2)] ダイアログボックスで、[追加 (Add)] をクリックします。
 - ステップ 9 [選択するオブジェクト名を入力してください (Enter the object names to select)] フィールドで、limited.ua と入力して、[名前の確認 (Check Names)] をクリックします。
Windows によりユーザ名が検索され、フィールドに表示されます。
 - ステップ 10 [OK] をクリック
 - ステップ 11 ユーザに次の権限を付与します。
 - メソッドの実行
 - アカウントの有効化
 - リモートの有効化
 - セキュリティの読み取り
 - ステップ 12 [Root\CIMV2 のセキュリティ (Security for Root\CIMV2)] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
 - ステップ 13 [WMI コントロールプロパティ (WMI Control Properties)] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
-

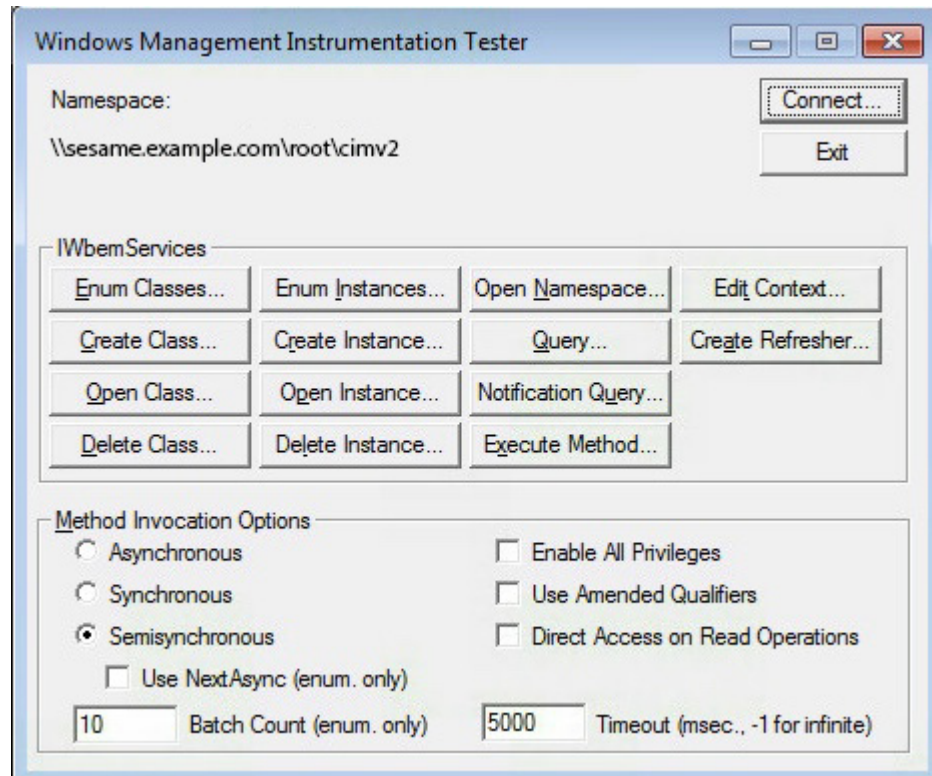
WMI 権限のテスト

ユーザ エージェントに Active Directory サーバに対する WMI 権限を付与したら、その権限を、ユーザ エージェントをインストールするコンピュータからテストする必要があります。

WMI の権限をテストするには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** ユーザ エージェントをインストールするドメインのコンピュータにログインします。
- ステップ 2** 検索フィールドに `wbemtest` と入力します。(Windows のバージョンによっては、[スタート(Start)] をまずクリックする必要があります。)
- ステップ 3** [Windows Management Instrumentation テスト (Windows Management Instrumentation Tester)] ダイアログ ボックスで、[接続(Connect)] をクリックします。
- ステップ 4** [接続(Connect)] ダイアログ ボックスに、次の情報を入力します。
- [名前空間 (Namespace)] フィールド: Active Directory サーバの名前とパスを、`\\namespace\root\cimv2` の形式で入力します。この例では、`\\sesame.example.com\root\cimv2` と入力します。
 - [資格情報 (Credentials)] フィールド: ユーザ名を `domain\username` の形式で [ユーザ (User)] フィールドに、およびユーザのパスワードを [パスワード (Password)] フィールドに入力します。この例では、ユーザ名は `sesame\limited.ua` です。
 - 通常、このダイアログ ボックスの他のオプションを変更する必要はありません。
- ステップ 5** [接続(Connect)] をクリックします。

接続が成功すると、次のように [Windows Management Instrumentation テスト (Windows Management Instrumentation Tester)] ダイアログ ボックスが表示されます。



エラーが表示される場合は、以下のことを試します。

- 「RPC サーバを使用できません(The RPC server is unavailable)」は、名前空間が正しくないかまたは Active Directory サーバがアクセス不能であること(ネットワーク問題、サーバがダウンしているなど)を示しています。
- 「アクセスは拒否されました(Access is denied)」は、ユーザ名またはパスワードが正しくないことを示しています。

ステップ 6 テストが成功したら、[クエリ (Query)] をクリックします。

ステップ 7 [クエリ (Query)] ダイアログ ボックスに、次のように入力します。

```
select * from Win32_NTLogEvent where Logfile = 'Security' and (EventCode=672 or
EventCode=4768 or EventCode=538 or EventCode=4364 or EventCode=528 or EventCode=4624 or
EventCode=4634) and TimeGenerated > "date-code"
```

日付コードは Microsoft 日時コードで、YYYYMMDDHHMMSS.fractionalSecond-utc_timezone_offset の形式です。

たとえば、米国中央タイムゾーン(UTC - 6 時間)において、2017 年 5 月 1 日深夜にクエリを実行するために、次を入力します。

```
select * from Win32_NTLogEvent where Logfile = 'Security' and (EventCode=672 or
EventCode=4768 or EventCode=538 or EventCode=4364 or EventCode=528 or EventCode=4624 or
EventCode=4634) and TimeGenerated > "20170501000000.000000-600"
```

ステップ 8 [クエリの種類 (Query Type)] リストから、[WQL] をクリックします。

ステップ 9 [適用 (Apply)] をクリックします。

クエリは新しいダイアログ ボックスで表示されます。

エラー「無効なクラスです(Invalid class)」または「無効なクエリです(Invalid query)」が表示される場合は、コマンド構文を確認して再実行します。結果が表示されない場合は、日付コードを確認します。

- ステップ 10 ログの表示が終了したら、[閉じる (Close)] をクリックします。
- ステップ 11 [Windows Management Instrumentation テスト (Windows Management Instrumentation Tester)] ダイアログ ボックスで、[終了 (Exit)] をクリックします。

ユーザーエージェントに分散コンポーネント オブジェクト管理 (DCOM) へのアクセスを許可する

このセクションでは、DCOM アクセスを許可して、ユーザーエージェントが Active Directory サーバ上のオブジェクトにリモートにアクセスできるようにする方法について説明します。

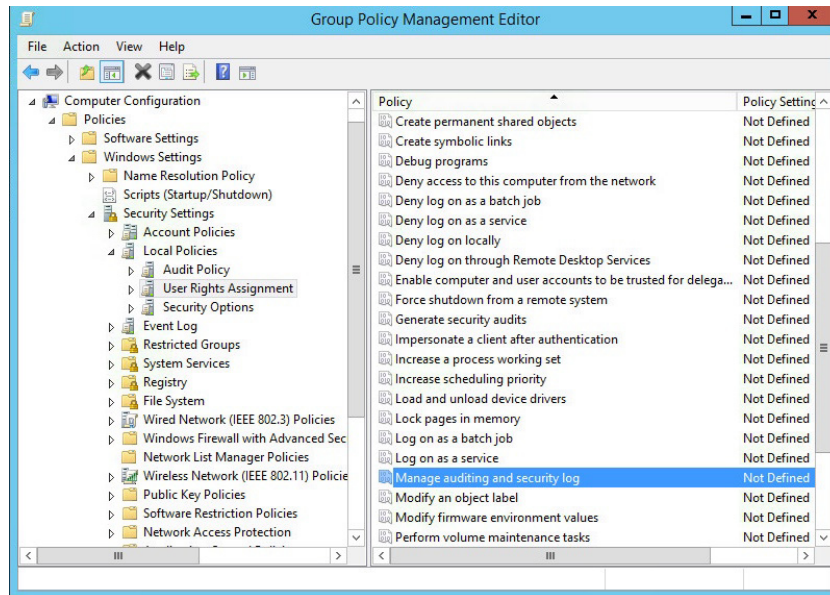
ユーザーに DCOM アクセスを付与するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 Active Directory サーバに Domain Admins グループのメンバーとしてログインします。
- ステップ 2 [スタート (Start)] > [ファイル名を指定して実行 (Run)] をクリックし、dcomcnfg を入力し、Enter を押します。
- ステップ 3 [コンポーネント サービス (Component Services)] ウィンドウで、[コンポーネント サービス (Component Services)] > [コンピュータ (Computers)] をクリックします。
- ステップ 4 [マイ コンピュータ (My Computer)] を右クリックし、[プロパティ (Properties)] をクリックします。
- ステップ 5 [コンピュータのプロパティ (Computer Properties)] ダイアログ ボックスで、[COM セキュリティ (COM Security)] タブをクリックします。
- ステップ 6 [起動とアクティブ化のアクセス許可 (Launch and Activation Permissions)] で、[制限の編集 (Edit Limits)] をクリックします。
- ステップ 7 [起動とアクティブ化のアクセス許可 (Launch and Activation Permissions)] ダイアログ ボックスで、[追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 8 [選択するオブジェクト名を入力してください (Enter the object names to select)] フィールドに、limited.ua を入力して、[名前の確認 (Check Names)] をクリックします。
- ステップ 9 名前が一致する場合は、[OK] をクリックします。
- ステップ 10 ユーザにリモートからの起動およびリモートからのアクティブ化権限を付与します。
- ステップ 11 [起動とアクティブ化のアクセス許可 (Launch and Activation Permissions)] ダイアログ ボックスで、[OK] をクリックします。
- ステップ 12 [コンピュータ プロパティ (My Computer Properties)] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

Active Directory セキュリティ ログへのアクセスを許可するグループ オブジェクト ポリシーを更新するには、次の手順に従います。

- ステップ 1 [スタート (Start)] > [すべてのプログラム (All Programs)] > [管理ツール (Administrative Tools)] > [グループ ポリシー管理 (Group Policy Management)] を選択します。
- ステップ 2 ナビゲーション ウィンドウで、[フォレスト: ご使用のホスト名 (Forest: YourForestName)] を展開し、[ドメイン (Domains)] > **ご使用のホスト名** > [グループ ポリシー オブジェクト (Group Policy Objects)] を展開します。
- ステップ 3 [デフォルトのドメイン ポリシー (Default Domain Policy)] を右クリックし、[編集 (Edit)] を選択します。

- ステップ 4 [コンピュータの構成(Computer Configuration)] > [ポリシー(Policies)] > [Windows の設定(Windows Settings)] > [セキュリティの設定(Security Settings)] > [ローカル ポリシー(Local Policies)] > [ユーザー権利の割り当て(User Rights Assignment)] を参照します。
- ステップ 5 右側のウィンドウで、[監査とセキュリティ ログの管理(Manage auditing and security log)] をダブルクリックします。
- 次の図は例を示しています。



- ステップ 6 [これらのポリシーの設定を定義する(Define these policy settings)] をオンにします。
- ステップ 7 [ユーザまたはグループを追加(Add User or Group)] をクリックします。
- ステップ 8 [ユーザとグループ名(User and group names)] フィールドで、ユーザーエージェントのユーザ名を入力するか、または [参照(Browse)] をクリックしてそれを見つけます。
- ステップ 9 [監査とセキュリティ ログの管理(Manage auditing and security log)] プロパティ ダイアログ ボックスで、[OK] をクリックします。

Windows ファイアウォールのグループ ポリシー オブジェクト ルールの作成

このセクションは、ユーザーエージェントが Active Directory サーバのリアルタイム イベント処理を使用するために必要です。リアルタイムのイベント処理の詳細については、[ユーザーエージェントの Active Directory サーバ接続の設定\(2-24 ページ\)](#) を参照してください。

インバウンドリモート プロシージャ コール(RPC)のネットワーク トラフィックを許可するには、グループ ポリシー管理でセキュリティが強化された Windows ファイアウォール ノードを使用して、2 つのファイアウォール ルールを作成します。

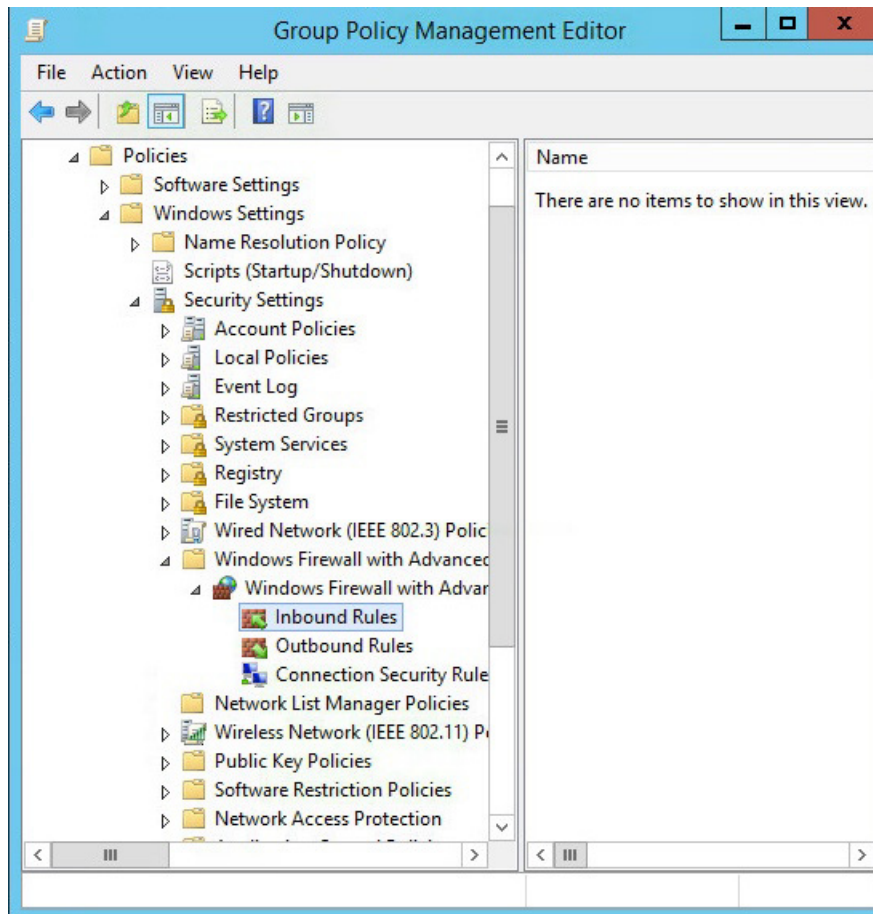
- 最初のルールでは、RPC エンドポイント マッパー サービスへの着信トラフィックを許可します。これはクライアントがサービスとの通信に使用する必要がある動的に割り当てられたポート番号で応答します。
- 2 番目のルールでは、動的に割り当てられたポート番号に送信されるネットワーク トラフィックを許可します。

2 つのルールを使用すると、RPC 動的ポート リダイレクトを受信したコンピュータのみを送信元、RPC エンドポイント マッパーによって割り当てられたポート番号のみを送信先としてネットワーク トラフィックが許可され、コンピュータを保護できます。

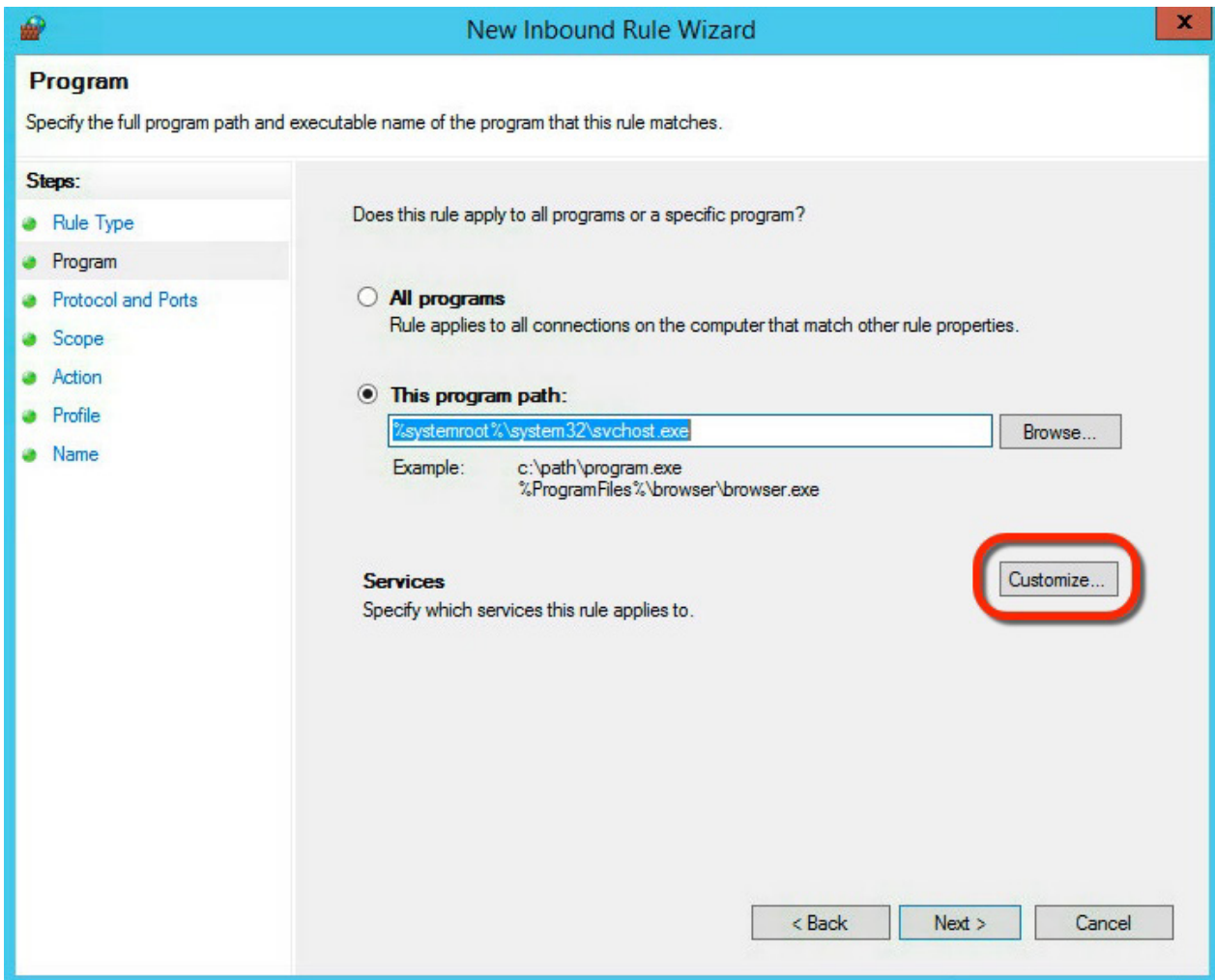
後述の手順で説明するタスクは、ユーザーエージェントがアクセスする必要のあるすべての Active Directory サーバ上で実行してください。

RPC トラフィックを許可するために **GPO** ファイアウォールルールを作成するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** まだそうしていない場合は、Active Directory サーバに Domain Admins グループのメンバーとしてログインします。
- ステップ 2** [スタート(Start)]>[管理ツール(Administrative Tools)] を選択します。
- ステップ 3** [管理ツール(Administrative Tools)] ウィンドウで、[グループ ポリシー管理(Group Policy Management)] をダブルクリックします。
- ステップ 4** ナビゲーション ウィンドウで、[フォレスト:ご使用のドメイン名 (Forest: *YourForestName*)] を展開し、[ドメイン(Domains)]> *ご使用のドメイン名*>[グループ ポリシー オブジェクト(Group Policy Objects)] を展開し、変更する GPO を右クリックして、[編集(Edit)] をクリックします。通常は、[既定のドメイン ポリシー(Default Domain Policy)] を編集する必要があります。
- ステップ 5** 左側のウィンドウで、[コンピュータの構成(Computer Configuration)]>[ポリシー(Policies)]>[Windows の設定(Windows Settings)]>[セキュリティの設定(Security Settings)]>[セキュリティが強化された Windows ファイアウォール(Windows Firewall with Advanced Security)]>[セキュリティが強化された Windows ファイアウォール(Windows Firewall with Advanced Security)] を展開します。次の図は例を示しています。



- ステップ 6 [受信の規則 (Inbound Rules)] を右クリックして、[新しい規則 (New Rule)] をクリックします。
- ステップ 7 [新規の受信の規則ウィザード (New Inbound Rule Wizard)] ダイアログ ボックスで、[カスタム (Custom)] をクリックし、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 8 [このプログラムパス (This program path)] をクリックし、`%systemroot%\system32\svchost.exe` を入力します。
- ステップ 9 サービスの横で、[カスタマイズ (Customize)] をクリックします。
次の図は例を示しています。



- ステップ 10 [サービス設定のカスタマイズ (Customize Service Settings)] ダイアログ ボックスで、[このサービスに適用する (Apply to this service)] をクリックし、短い名前 **RpcSs** の [リモートプロシージャコール (RPC) (Remote Procedure Call (RPC))] を選択し、[OK] をクリックします。
- ステップ 11 [次へ (Next)] をクリックします。処理の確認が求められます。
- ステップ 12 [プロトコルおよびポート (Protocol and Ports)] ダイアログ ボックスで、[プロトコルの種類 (Protocol type)] に [TCP] をクリックします。
- ステップ 13 [ローカルポート (Local port)] で、[RPC エンドポイント マッパー (RPC Endpoint Mapper)] を選択して、[次へ (Next)] をクリックします。

- ステップ 14 [スコープ (Scope)] ページの、[このルールはどのリモートIPアドレスに適用されますか (Which remote IP addresses does this rule apply to?)] セクションで、[これらのIPアドレス (These IP addresses)] をし、[追加 (Add)] をクリックして、ユーザーエージェント コンピュータの IP アドレスを入力します。
- ステップ 15 [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 16 [アクション (Action)] ページで、[接続を許可する (Allow the connection)] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 17 [プロファイル (Profiles)] ページで、[ドメイン (Domain)] のみをオンにして、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 18 [名前 (Name)] ページで、このルールを識別する名前を入力して、[完了 (Finish)] をクリックします。

動的にマップされたポートを許可する GPO ルールを作成するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 [Windows ファイアウォールのグループ ポリシー オブジェクト ルールの作成\(2-15 ページ\)](#)の 1 ~ 4 の手順を完了させます。
- ステップ 2 [新規の受信の規則ウィザード (New Inbound Rule Wizard)] ダイアログ ボックスで、[カスタム (Custom)] をクリックし、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 3 [このプログラム パス (This program path)] をクリックし、%systemroot%\system32\svchost.exe を入力します。
- ステップ 4 サービスの横で、[カスタマイズ (Customize)] をクリックします。
- ステップ 5 [サービス設定のカスタマイズ (Customize Service Settings)] ダイアログ ボックスで、[このサービスに適用する (Apply to this service)] をクリックし、短い名前 **EventLog** の [Windows イベント ログ (Windows Event Log)] を選択し、[OK] をクリックします。
- ステップ 6 [次へ (Next)] をクリックします。処理の確認が求められます。
- ステップ 7 [プロトコルおよびポート (Protocol and Ports)] ダイアログ ボックスで、[プロトコルの種類 (Protocol type)] に [TCP] をクリックします。
- ステップ 8 [ローカル ポート (Local port)] で、[RPC 動的ポート (RPC Dynamic Ports)] をクリックして、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 9 [スコープ (Scope)] ページで、[これらの IP アドレス (These IP addresses)] をクリックし、[追加 (Add)] をクリックして、ユーザーエージェント コンピュータの IP アドレスを入力します。
- ステップ 10 [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 11 [アクション (Action)] ページで、[接続を許可する (Allow the connection)] をクリックし、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 12 [プロファイル (Profiles)] ページで、[ドメイン (Domain)] のみをオンにして、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 13 [名前 (Name)] ページで、このルールを識別する名前を入力して、[完了 (Finish)] をクリックします。
-

GPO ポリシーを適用するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 新しい GPO ポリシーを、gpupdate /force コマンドまたは同等のメソッドを使用して適用します。GPO ポリシーの適用の詳細については、次の参照資料を参照してください。
- [Microsoft TechNet の「GPO Policy for Beginners」](#)
 - [Microsoft TechNet の「Policy Processing」](#)



注

昇格された権限を使用して、gpupdate /force コマンドを実行する必要があります。Active Directory サーバに管理者としてログインするか、コマンドプロンプトを管理者として実行します(コマンドプロンプトを右クリックして、[管理者として実行(Run as Administrator)]をクリックします)。

ユーザーエージェント設定のバックアップ

ユーザーエージェントの旧バージョンがインストールされている場合は、ユーザーエージェントの新しいバージョンをインストールすると、既存の設定が削除されます。既存の構成設定を保持するには、ユーザーエージェントの新しいバージョンをインストールする前に、データベースをバックアップします。



注

バージョン 2.2 以降のユーザーエージェントがインストールされている場合は、データベースをバックアップする必要はありません。ユーザーエージェントの新しいバージョンをインストールするときに、構成設定が自動的にインポートされます。[ユーザーエージェントのインストール\(2-21 ページ\)](#)に進みます。

構成設定を保持するには、次の手順を実行します。


- ステップ 1 エージェントがインストールされているコンピュータで、[スタート(Start)] > [プログラム(Programs)] > [Cisco] > [Active Directory 用の Cisco FirePOWER ユーザエージェントの設定(Configure Cisco Firepower User Agent for Active Directory)] をクリックします。
- ステップ 2 エージェントサービスを停止するには、停止ボタン(■) をクリックします。
- ステップ 3 エージェントがインストールされているコンピュータで CiscoUserAgent.sdf を見つけ、このファイルをローカルでコピーします。



注

2.2 以前のバージョンから更新している場合は、SourcefireUserAgent.sdf を見つけて、コピーします。ファイルのコピーを作成し、名前を CiscoUserAgent.sdf に変更します。

- ステップ 4 Cisco ユーザエージェントを、[コントロールパネル(Control Panel)] の [プログラムの追加と削除(Add/Remove Programs)] オプションを使用してアンインストールします。エージェントを削除します。
- ステップ 5 ユーザエージェントの最新バージョンをインストールします。詳細については、[ユーザーエージェントのインストール\(2-21 ページ\)](#)を参照してください。

- ステップ 6 エージェントがインストールされているコンピュータで、[スタート (Start)] > [プログラム (Programs)] > [Cisco] > [Active Directory 用の Cisco FirePOWER ユーザエージェントの設定 (Configure Cisco Firepower User Agent for Active Directory)] を選択します。
- ステップ 7 エージェント サービスを停止するには、停止ボタン (■) をクリックします。
- ステップ 8 エージェントの最新バージョンがインストールされているコンピュータで `CiscoUserAgent.sdf` を見つけます。現在のファイルを、エージェントの旧バージョンから作成したローカルバックアップに置き換えます。
- ステップ 9 最新バージョンのエージェントがインストールされているコンピュータで、[スタート (Start)] > [プログラム (Programs)] > [Cisco] > [Active Directory 用の Cisco FirePOWER ユーザエージェントの設定 (Configure Cisco Firepower User Agent for Active Directory)] を選択します。
- ステップ 10  をクリックしてサービスを開始します。
[ユーザエージェントのインストール\(2-21 ページ\)](#)に進みます。
-

ユーザエージェントのインストール

Active Directory サーバに接続する権限を設定した後、およびアイドル状態のリモートセッションのタイムアウト後に、エージェントをインストールします。



注意

ユーザエージェントの旧バージョンがインストールされている場合は、構成設定を保持するため、インストールの前にデータベースのバックアップを実行する必要があります。詳細については、[ユーザエージェント設定のバックアップ\(2-19 ページ\)](#)を参照してください。

デフォルトでは、エージェントは、ローカルシステムアカウントを使用するサービスとして動作します。エージェントが実行されている Windows コンピュータがネットワークに接続されている場合、ユーザがコンピュータにアクティブにログインしていなくても、このサービスはユーザデータのポーリングと送信を続けます。

エージェントごとに、1 つ以上の Active Directory サーバと最大 5 つの Management Center への接続を設定できます。Management Center の接続を追加する前に、必ず Management Center の設定にエージェントを追加してください。詳細については、以下を参照してください。

- [ユーザエージェントに接続するためのバージョン 6.2.3 以降の Management Center の設定\(2-3 ページ\)](#)

1 つ以上のユーザエージェントの展開の詳細については、[複数のユーザエージェントの展開\(1-5 ページ\)](#)を参照してください。

高可用性構成では、両方の Management Center をエージェントに追加して、プライマリとセカンダリの両方に対するユーザログインデータの更新を可能にし、両方のデータが最新になるようにします。

ユーザエージェントをインストールするには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** [ユーザエージェントのユーザの作成\(2-9 ページ\)](#)で作成したユーザとして、ユーザエージェントをインストールする Windows コンピュータにログインします。
- 旧バージョンのユーザエージェントをアップグレードする場合は、同じコンピュータにログインします。
 - (推奨)Active Directory サーバとは別のコンピュータにユーザエージェントをインストールするには、そのコンピュータにログインします。
 - Active Directory サーバにユーザエージェントをインストールするには、Domain Admins グループ、および必要であれば管理者グループのメンバーとして、Active Directory サーバにログインします。

- ステップ 2** [ユーザー エージェント セットアップ ファイル](#)
(Cisco_Firepower_User_Agent_for_Active_Directory_2.5-148.zip)をサポートサイトからダウンロードします。



注 サポート サイトから直接、ユーザエージェントのセットアップ ファイルを含む圧縮アーカイブをダウンロードします。破損する可能性があるため、ファイルは電子メールでは転送しないでください。

- ステップ 3** .zip ファイルを右クリックし、[すべて展開 (Extract All)] を選択します。

- ステップ 4** ファイルを展開するフォルダを選択します。

エージェントをインストールするにはハードドライブ上に3 MBの空き領域が必要です。エージェントローカルデータベース用に、ハードドライブで4 GBを割り当てることを推奨します。

ステップ 5 ファイルを展開したフォルダで、`setup.exe` をダブルクリックします。



注 `setup.exe` をダブルクリックします(`setup.msi` ではありません)。`setup.msi` はユーザーエージェントのインストール前に前提条件ソフトウェアを確認しませんが、それによりエージェントのインストールまたは実行がエラーになる可能性があります。



ヒント 管理者グループのメンバーではないアカウントを使用しており、Windows コンピュータに新しいアプリケーションをインストールする権限を持っていない場合は、インストールを開始するための適切な権限を持っている管理者グループに属するユーザーに昇格させる必要があります。エスカレーションオプションにアクセスするには、`setup.exe` ファイルを右クリックして、[別のユーザーとして実行(Run As)] をクリックします。該当するユーザーを選択して、そのユーザーのパスワードを入力します。

ステップ 6 インストールを続行するにはライセンス契約に同意する必要があります。

ステップ 7 エージェントをインストールする Windows コンピュータ上に Microsoft .NET Framework バージョン 4.0 クライアントプロファイルと SQL Server Compact 4.0 の両方がインストールされていない場合は、該当ファイルをダウンロードするためのプロンプトが表示されます。ファイルをダウンロードしてインストールします。

ステップ 8 ウィザード内のプロンプトに従ってエージェントをインストールします。

コンピュータでユーザーアカウント制御が有効になっている場合、変更を行う許可を求めるすべてのプロンプトに対して [はい(Yes)] と応答する必要があります。

ステップ 9 エージェントの設定を開始するには、[ユーザーエージェントの設定\(2-23 ページ\)](#) を参照してください。

ユーザエージェントの設定

エージェントをインストールしたら、Active Directory サーバからデータを受信して、その情報を Management Center に報告し、レポートから特定のユーザ名と IP アドレスを除外して、ステータスメッセージをローカルイベントログまたは Windows アプリケーションログに記録するようにエージェントを設定します。

エージェントを設定するには、次の手順を実行します。

アクセス:任意(Any)

- ステップ 1** エージェントがインストールされているコンピュータで、[スタート(Start)] > [プログラム(Programs)] > [Cisco] > [Active Directory 用の Cisco FirePOWER ユーザエージェントの設定(Configure Cisco Firepower User Agent for Active Directory)] を選択します。

次の表に、エージェントを設定する場合に実行可能な操作とエージェントの設定場所の説明を示します。

表 2-1 ユーザエージェントの設定操作

目的	操作
エージェント名の変更、ログオフチェックの頻度の変更、サービスの開始と停止、スケジュール優先度の設定	[全般(General)] タブをクリックします。詳細については、 ユーザエージェントの全般的な設定の構成(2-33 ページ) を参照してください。
Active Directory サーバの追加、変更、または削除、Active Directory サーバデータのリアルタイムでの取得の有効化、Active Directory サーバのポーリング間隔と最大ポーリング時間の変更	[Active Directory サーバ(Active Directory Servers)] タブをクリックします。詳細については、 ユーザエージェントの Active Directory サーバ接続の設定(2-24 ページ) を参照してください。
Management Center の追加または削除、または Management Center のパスワード変更	[Firepower Management Centers] タブをクリックします。詳細については、 ユーザエージェントの Management Center 接続の設定(2-27 ページ) を参照してください。
レポートから除外するユーザ名の追加、変更、または削除	[除外ユーザ名(Excluded Usernames)] タブをクリックします。詳細については、 ユーザエージェントの除外ユーザ名設定の構成(2-29 ページ) を参照してください。
レポートから除外する IP アドレスの追加、変更、または削除	[除外アドレス(Excluded Addresses)] タブをクリックします。詳細については、 ユーザエージェントの除外アドレス設定の構成(2-30 ページ) を参照してください。
イベントログの表示、エクスポート、クリア、Windows アプリケーションログへの記録、メッセージの保持期間の変更	[ログ(Logs)] タブをクリックします。詳細については、 ユーザエージェントのロギング設定の構成(2-31 ページ) を参照してください。
Cisco TAC から指示されたトラブルシューティングおよびメンテナンス タスクの実行	[ログ(Logs)] タブを選択して、[ログ内のデバッグメッセージを表示(Show Debug Messages in Log)] を有効にしてから、[メンテナンス(Maintenance)] タブをクリックします。詳細については、 ユーザエージェントのメンテナンス設定の構成(2-35 ページ) を参照してください。

表 2-1 ユーザエージェントの設定操作 (続き)

目的	操作
エージェント設定の変更の保存	[保存 (Save)] をクリックします。未保存の変更がある場合には、そのことを示すメッセージが表示されます。
エージェント設定に対する変更を保存せずにエージェントを閉じる	[キャンセル (Cancel)] をクリックします。

ユーザエージェントの Active Directory サーバ接続の設定

ユーザエージェントから1つ以上の Active Directory サーバへの接続を追加し、次を構成できます。

- エージェントがリアルタイムでログインおよびログオフ データを取得するか、または Active Directory サーバのデータを定期的にポーリングするか。
- エージェントがユーザ アクティビティ データをポーリングする頻度、または接続が失われた場合に Active Directory サーバとのリアルタイム接続の確立または再確立を試行する頻度。
- エージェントが Active Directory サーバ自体にログインするために報告する IP アドレス。
- Active Directory サーバとの接続の確立または再確立時にエージェントが取得するログインおよびログオフ データの量。

ユーザエージェントがリアルタイムでデータを取得するように設定されていて、リアルタイムモニタリングが利用できない場合は、リアルタイム モニタリングが再び利用可能になるまで、エージェントは代わりに Active Directory サーバのデータをポーリングしようとします。



ヒント

シスコでは、ユーザエージェントが大量のユーザ アクティビティを取得する場合に、リアルタイムデータ取得の代わりにポーリングを設定することを推奨しています。アクティビティの多い環境では、ポーリング間隔を1分に設定し、最大ポーリング時間を10分以下に設定してください。

リアルタイム モニタリングを使用するには、Active Directory サーバで Windows Server 2008 以降が実行されている必要があります。



注

ユーザエージェントを Windows Server 2003 またはそれ以前のオペレーティング システムにインストールする場合、ユーザエージェントは Active Directory コンピュータからのリアルタイム統計を収集できません。

ユーザエージェントでは、タブ選択時の Active Directory サーバの最新のポーリング ステータス、エージェントに報告された最後のログイン、およびエージェントが最後に Active Directory サーバをポーリングした時間を確認できます。

エージェントが Active Directory サーバをリアルタイムでポーリングしているかどうか、タブ選択時のリアルタイムデータの取得ステータスも確認できます。サーバのステータスの詳細については、次の表を参照してください。

表 2-2 Active Directory サーバのステータス

Active Directory サーバのステータス	ポーリングの可用性	リアルタイムの可用性
available	サーバのポーリングが利用できます。	サーバのリアルタイムデータ取得が利用できます。
unavailable	サーバのポーリングが利用できません。	サーバのリアルタイムデータ取得が利用できないか、サーバがポーリング用に設定されています。
pending	サーバ構成は追加されましたが、通信はまだ開始していません。	サーバ構成を追加して保存してから、ユーザエージェントとの通信を開始するまでには、いくらかの時間がかかります。pending ステータスが続く場合は、ユーザエージェントとサーバとの間の通信を確認してください。
unknown	エージェントは起動されていますが、ステータスをまだ取得できません。または、エージェントが Active Directory サーバをまだチェックしていません。	エージェントは起動されていますが、ステータスをまだ取得できません。または、エージェントが Active Directory サーバをまだチェックしていません。



注

各ユーザエージェントが互いの接続を検出するたびに余分なログインが報告されるため、同じ Active Directory ドメインコントローラに複数のユーザエージェントを接続しないでください。複数のユーザエージェントを接続する場合は、同じ Active Directory サーバをポーリングしているエージェントを実行している他のすべてのホストの IP アドレスとエージェントがログイン時に使用するユーザ名を除外するように、各ユーザエージェントを設定してください。詳細については、[ユーザエージェントの除外アドレス設定の構成 \(2-30 ページ\)](#) を参照してください。

Active Directory サーバの接続を設定するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 必要に応じて、ユーザエージェントがインストールされているコンピュータにログインします。
- ステップ 2 [スタート (Start)] > [(すべての) プログラム ((All) Programs)] > [Cisco] > [Cisco Firepower Agent for Active Directory の設定 (Configure Cisco Firepower Agent for Active Directory)] をクリックします。
- ステップ 3 [Active Directory サーバ (Active Directory Servers)] タブをクリックします。
- ステップ 4 次の選択肢があります。
 - サーバへの新しい接続を追加するには、[追加 (Add)] をクリックします。
 - 既存の接続を変更するには、サーバ名をダブルクリックします。
 - 既存の接続を削除するには、サーバ名をクリックして [削除 (Remove)] をクリックします。
- ステップ 5 [サーバ名/IP アドレス (Server Name/IP Address)] フィールドで、Active Directory サーバまたはドメインコントローラの完全修飾サーバ名または IP アドレスを入力します。Active Directory サーバへのログインを検出するには、IP アドレスを入力します。

エージェントが Active Directory サーバにインストールされている場合は、エージェントがインストールされているサーバを追加するために、サーバ名として localhost を入力します。必要に応じて、ユーザ名とパスワードを追加できます。これらの情報を省略すると、その Active Directory サーバへ認証を行っているユーザのログオフを検出できません。ユーザ名とパスワードを入力したかどうかに関係なく、サーバをポーリングできます。



注 Active Directory システムに複数のドメインコントローラがある場合は、ユーザーエージェントと通信させるドメインコントローラのホスト名または IP アドレスを入力します (Active Directory ドメイン コントローラはそのセキュリティ ログを共有しないので、各コントローラへの個別のユーザーエージェント接続が必要です)。分散システムまたはトラフィックが多いシステムでは、必要に応じて 1 つ以上のユーザーエージェントをインストールできます。これについては、[複数のユーザーエージェントの展開 \(1-5 ページ\)](#) で説明しています。

ステップ 6 [許可されたユーザ (Authorized User)] および [パスワード (Password)] フィールドに、Active Directory サーバのユーザ ログインおよびログオフ データをクエリする権限を持つユーザ名とパスワードを入力します。

プロキシを使用して認証するには、完全修飾ユーザ名を入力します。

デフォルトでは、エージェントがインストールされているコンピュータへのログイン時に使用したアカウントのドメインが [ドメイン (Domain)] フィールドに自動的に入力されています。



注 ユーザ パスワードに含まれる文字が 65 文字以上の場合、新しいサーバ接続を設定できません。この機能を使用できるようにするには、パスワードを短くしてください。

ステップ 7 [ドメイン (Domain)] フィールドに、Active Directory ドメインの名前を入力します。

ステップ 8 Active Directory サーバへのログインを検出するには、[ローカル ログイン IP アドレス (Local Login IP Address)] フィールドから IP アドレスを選択します。このフィールドには、[サーバ名/IP アドレス (Server Name/IP Address)] フィールドに指定されたサーバに関連付けられているすべての IP アドレスがエージェントによって自動的に入力されています。

[サーバ名/IP アドレス (Server Name/IP Address)] フィールドが空であるか、または localhost を含んでいる場合は、ローカル ホストに関連付けられているすべての IP アドレスがこのフィールドに入力されています。

ステップ 9 ユーザーエージェントがこの Active Directory サーバからリアルタイムでログイン イベントを取得できるようにするには、[リアルタイム イベントを処理 (Process realtime events)] をクリックします。

ステップ 10 [追加 (Add)] をクリックして新規サーバを追加するか、または [保存 (Save)] をクリックして既存のサーバへの変更を保存します。

このサーバ接続定義が Active Directory サーバのリストに表示されます。複数のサーバ接続が設定されている場合は、[ホスト (Host)]、[最終報告 (Last Reported)]、[ポーリング ステータス (Polling Status)]、[最終ポーリング (Last Polled)]、[リアルタイム ステータス (Real Time Status)]、または [リアルタイム (Real Time)] の列ヘッダーをクリックすると、それぞれの列でソートできます。



注 設定時にユーザーエージェントが Active Directory サーバに接続できない場合、そのサーバは追加できません。エージェントがサーバに TCP/IP でアクセスできること、使用したクレデンシャルで接続できること、および Active Directory サーバへの接続を正しく設定していることを確認してください。詳細については、[Active Directory サーバの設定 \(2-4 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 11 (オプション) エージェントが Active Directory サーバのユーザ ログイン データを自動的にポーリングする間隔を変更するには、[Active Directory サーバのポーリング間隔 (Active Directory Server Polling Interval)] リストから時間を選択します。

設定を保存すると、選択した分数が経過した後で次のポーリングが開始され、その間隔で繰り返されます。ポーリングにかかる時間が選択した間隔よりも長い場合、次のポーリングは前のポーリングが終了した後の次の間隔で開始されます。

Active Directory サーバに対するリアルタイム イベント処理が有効になっていて、ユーザ エージェントとサーバの接続が失われている場合、エージェントは応答を受信してリアルタイムデータの取得が可能になるまでポーリングを試行し続けます。接続が確立されると、リアルタイムデータの取得が再開されます。

ステップ 12 (オプション) エージェントが Active Directory サーバのユーザ ログイン データをポーリングするための接続を最初に確立 (または再確立) するときの最大ポーリング時間を変更するには、[Active Directory サーバの最大ポーリング時間 (Active Directory Server Max Poll Length)] リストから時間を選択します。



注 ユーザ エージェントでは、各ポーリングのユーザ アクティビティ データをスキップする設定を保存できません。[Active Directory サーバの最大ポーリング時間 (Active Directory Server Max Poll Length)] リストに保存する値を、[Active Directory サーバのポーリング間隔 (Active Directory Server Polling Interval)] リストから選択した値より小さくすることはできません。

ステップ 13 設定の変更を保存してエージェントに適用するには、[保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 14 次の選択肢があります。

- Management Center の接続を追加または削除するには、[Firepower Management Centers] タブを選択します。詳細については、[ユーザ エージェントの Management Center 接続の設定 \(2-27 ページ\)](#) を参照してください。
ユーザ ログインおよびログオフ データを報告するには、エージェントに少なくとも 1 つの Management Center を追加する必要があります。
- エージェントを設定する場合は、[表 2-1 \(2-23 ページ\)](#) で説明されているいずれかの操作を実行します。

ユーザ エージェントの Management Center 接続の設定

Active Directory ユーザデータを、ユーザエージェントから最大 5 つの Management Center に送信できます。エージェントでは、タブ選択時の Management Center のステータス (エージェントが最初に起動したときの available、unavailable、または unknown) や、エージェントによって報告された最後のログインを確認することもできます。

接続を追加する前に、必ず Management Center の設定にユーザエージェントを追加してください。詳細については、[ユーザエージェントに接続するためのバージョン 6.2.3 以降の Management Center の設定 \(2-3 ページ\)](#) を参照してください。

高可用性構成では、両方の Management Center をエージェントに追加し、プライマリとセカンダリの両方に対するユーザログインおよびログオフデータの更新を有効にして、両方で最新のデータが保持されるようにします。

Management Center の接続を設定するには、次の手順を実行します。

アクセス:任意(Any)

-
- ステップ 1** 必要に応じて、ユーザエージェントがインストールされているコンピュータにログインします。
- ステップ 2** [スタート(Start)]>[(すべての)プログラム((All) Programs)]>[Cisco]>[Cisco Firepower Agent for Active Directory の設定 (Configure Cisco Firepower Agent for Active Directory)] をクリックします。
- ステップ 3** [Firepower Management Centers] タブをクリックします。
- ステップ 4** [サーバ名/IPアドレス (Server Name/IP Address)] フィールドに、追加する Management Center のホスト名または IP アドレスを入力します。
- ステップ 5** [パスワード (Password)] フィールドに、ユーザエージェントが Firepower Management Center にログインするために設定したパスワードを入力します。パスワードを設定していない場合は、このフィールドを空白のままにします。パスワードの設定に関する詳細については、『*Firepower Management Center Configuration Guide*』の「Firepower Management Center CLI Reference」の章を参照してください。

ユーザエージェントのパスワードを変更するには、[ユーザエージェントパスワードの変更 \(2-29 ページ\)](#) を参照してください。

- ステップ 6** [追加(Add)] をクリックします。

Management Center 接続の設定が追加されます。ホスト名または IP アドレスを複数回追加することはできません。ホスト名と IP アドレスの両方を使って Management Center を追加しないでください。Management Center に複数のネットワークアダプタがある場合は、異なる IP アドレスを使用して複数回追加しないでください。

複数の Management Center 接続が設定されている場合は、[ホスト(Host)]、[ステータス(Status)]、または [最終報告 (Last Reported)] の列見出しをクリックすると、それぞれの列でソートできます。



注 設定時にユーザエージェントが Management Center に接続できない場合は、その Management Center を追加できません。エージェントが Management Center に TCP/IP でアクセスできることを確認します。

- ステップ 7** 設定の変更を保存してエージェントに適用するには、[保存(Save)] をクリックします。更新された設定がエージェントに適用されます。
- ステップ 8** 次の選択肢があります。
- (オプション)除外ユーザ名リストのユーザ名を追加または削除するには、[除外ユーザ名 (Excluded Usernames)] タブを選択します。詳細については、[ユーザエージェントの除外ユーザ名設定の構成 \(2-29 ページ\)](#) を参照してください。
 - (オプション)除外 IP アドレスリストの IP アドレスを追加または削除するには、[除外アドレス (Excluded Addresses)] タブを選択します。詳細については、[ユーザエージェントの除外アドレス設定の構成 \(2-30 ページ\)](#) を参照してください。
 - (オプション)ログメッセージを表示したり、ロギングを設定したりするには、[ログ(Logs)] タブを選択します。詳細については、[ユーザエージェントのロギング設定の構成 \(2-31 ページ\)](#) を参照してください。
 - (オプション)エージェントの全般的な設定を構成するには、[全般(General)] タブをクリックします。詳細については、[ユーザエージェントの全般的な設定の構成 \(2-33 ページ\)](#) を参照してください。
 - エージェントを設定する場合は、[表 2-1 \(2-23 ページ\)](#) で説明されているいずれかの操作を実行します。

ユーザエージェントパスワードの変更

ユーザエージェントパスワードは、ユーザエージェント 2.5 以降および Firepower Management Center 6.5 以降を使用して変更できます。

デフォルトまたは別のパスワードからユーザエージェントパスワードを変更した場合は、次の手順を実行する必要があります。

-
- ステップ 1 必要に応じて、ユーザエージェントがインストールされているコンピュータにログインします。
 - ステップ 2 [スタート (Start)] > [(すべての) プログラム ((All) Programs)] > [Cisco] > [Cisco Firepower Agent for Active Directory の設定 (Configure Cisco Firepower Agent for Active Directory)] をクリックします。
 - ステップ 3 [Firepower Management Centers] タブをクリックします。
 - ステップ 4 ユーザエージェントから Firepower Management Center を削除します。
 - ステップ 5 FMC で設定したパスワードを使用して Firepower Management Center を追加します。詳細については、前のセクションを参照してください。
 - ステップ 6 ユーザエージェントサービスを再起動します。[ユーザエージェントの全般的な設定の構成 \(2-33 ページ\)](#) を参照してください。

ユーザエージェントの除外ユーザ名設定の構成

ログインまたはログオフ イベントのポーリング時に除外するユーザ名を最大 500 件定義できます。除外されたユーザ名によるログインまたはログオフ イベントを取得した場合、エージェントはそのイベントを Management Center に報告しません。

ユーザ名を除外する前に報告されたログインおよびログオフ イベントは影響を受けません。除外ユーザ名リストからユーザ名を削除すると、その後のそのユーザ名のログインおよびログオフ イベントは Management Center に報告されます。

あるユーザによるすべてのログインおよびログオフ イベントを、すべてのドメインから除外するか、または特定のドメインから除外するかを選択できます。コンマ区切り値 (CSV) ファイルに保存されるユーザ名とドメインのリストをエクスポートおよびインポートすることもできます。Management Center にすでに報告されたユーザを除外した場合、データベースからホストをパージしないかぎり、そのユーザはホストからマッピング解除されないことに注意してください。

たとえば、Active Directory サーバとは別のコンピュータにユーザエージェントをインストールした場合、このオプションを使用して、ユーザエージェントユーザを Management Center にログインしないように除外できます。

除外ユーザ名を設定するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1 必要に応じて、ユーザエージェントがインストールされているコンピュータにログインします。
 - ステップ 2 [スタート (Start)] > [(すべての) プログラム ((All) Programs)] > [Cisco] > [Cisco Firepower Agent for Active Directory の設定 (Configure Cisco Firepower Agent for Active Directory)] をクリックします。[除外ユーザ名 (Excluded Usernames)] タブを選択します。
 - ステップ 3 入力可能な次の行の [ユーザ名 (Username)] 列に除外するユーザ名を入力します。
除外ユーザ名にドル記号文字 (\$) や引用符文字 (") を含めることはできません。
 - ステップ 4 ユーザ名に関連付けられたドメインを [ドメイン (Domain)] 列に入力します。
行ごとに 1 つのドメインのみ定義できます。ドメインを指定しない場合、すべてのドメインのユーザ名が除外されます。

- ステップ 5** ユーザ名をさらに追加するには、ステップ 3 および 4 を繰り返します。複数の除外ユーザ名が設定されている場合は、[ユーザ名 (Username)] または [ドメイン (Domain)] の列ヘッダーをクリックすると、それぞれの列でソートできます。
- ステップ 6** 行を削除する場合、次の選択肢があります。
- 行を強調表示して Del キーを押します。
 - ユーザ名の末尾にポインタを置いて、ユーザ名が削除されるまで Back Space キーを押します。行が削除されます。
- 複数の行を削除するには、Ctrl キーを押した状態で複数の行をクリックして選択し、それから Delete キーを押します。
- ステップ 7** ユーザ名とドメインのリストをコンマ区切り値 (CSV) ファイルにエクスポートするには、[リストのエクスポート (Export List)] をクリックします。ファイルの保存先のファイルパスを選択します。ファイルが保存されます。デフォルトのファイル名は Cisco_user_agent_excluded_users.csv です。
- ステップ 8** ユーザ名とドメインのリストをコンマ区切り値 (CSV) ファイルからインポートするには、[リストのインポート (Import List)] をクリックします。アップロードするファイルを選択します。
- 既存のユーザ名がクリアされ、ファイル内のユーザ名がロードされます。重複するユーザ名を含むファイルをアップロードすることはできません。ファイルに構文エラーがある場合、ファイルをアップロードできません。
- コンマ区切り値 (CSV) ファイル内のエントリは、次の形式になっている必要があります。
- ```
"username", "domain"
```
- ドメインの値はオプションですが、プレースホルダとして引用符が必要です。
- ステップ 9** [保存 (Save)] をクリックして設定の変更を保存し、エージェントに適用します。
- ステップ 10** 次の選択肢があります。
- 除外 IP アドレス リストの IP アドレスを追加または削除するには、[除外アドレス (Excluded Addresses)] タブを選択します。詳細については、[ユーザエージェントの除外アドレス設定の構成 \(2-30 ページ\)](#) を参照してください。
  - エージェントを設定する場合は、[表 2-1 \(2-23 ページ\)](#) で説明されているいずれかの操作を実行します。

## ユーザエージェントの除外アドレス設定の構成

ログイン イベントのポーリング時に除外する IPv4 および IPv6 アドレスを最大 100 件設定できます。除外された IP アドレスを含むログインまたはログオフ イベントを取得した場合、ユーザエージェントはそのイベントを Management Center に報告しません。

IP アドレスを除外する前に報告されたログインおよびログオフ イベントは影響を受けません。除外アドレス リストから IP アドレスを削除すると、その後のそのアドレスのログインおよびログオフ イベントは Management Center に報告されます。

たとえば、Active Directory サーバとは別のコンピュータにユーザエージェントをインストールした場合、このオプションを使用して、ユーザエージェント ユーザを Management Center にログインしないように除外できます。



### 注

同じネットワーク内でユーザエージェントと TS エージェントの両方を使用する場合は、重大ではないエラーが Firepower Management Center に記録されないようにするために、TS エージェントの IP アドレスを除外する必要があります。TS エージェントとユーザエージェントの両方が同じユーザのログインを検出すると、重大ではないエラーがログに書き込まれます。

除外 IP アドレスを設定するには、次の手順を実行します。

- 
- ステップ 1** 必要に応じて、ユーザエージェントがインストールされているコンピュータにログインします。
- ステップ 2** [スタート (Start)] > [(すべての) プログラム ((All) Programs)] > [Cisco] > [Cisco Firepower Agent for Active Directory の設定 (Configure Cisco Firepower Agent for Active Directory)] をクリックします。[除外アドレス (Excluded Addresses)] タブを選択します。
- ステップ 3** 入力可能な次の行の [アドレス (Address)] 列に、除外する IP アドレスを入力します。IP アドレスをさらに追加するには、この手順を繰り返します。
- 複数の除外 IP アドレスが設定されている場合は、[アドレス (Address)] の列ヘッダーをクリックすると、それぞれの列でソートできます。
- 無効な IP アドレスを入力した場合は、行のヘッダーに感嘆符アイコン (❗) が表示されます。無効なアドレスを修正しないと、他のアドレスを入力できません。
- ステップ 4** IP アドレスを削除するには、行を強調表示して Del キーを押します。
- IP アドレスが削除されます。複数の行を削除するには、Ctrl キーを押した状態で複数の行をクリックして選択し、それから Delete キーを押します。
- ステップ 5** IP アドレスのリストをコンマ区切り値 (CSV) ファイルにエクスポートするには、[リストのエクスポート (Export List)] をクリックします。ファイルの保存先のファイルパスを選択します。
- ファイルが保存されます。デフォルトのファイル名は Cisco\_user\_agent\_excluded\_addresses.csv です。
- ステップ 6** IP アドレスのリストをコンマ区切り値 (CSV) ファイルからインポートするには、[リストのインポート (Import List)] をクリックします。アップロードするファイルを選択します。
- 既存の IP アドレスがクリアされ、ファイル内の IP アドレスがロードされます。重複する IP アドレスを含むファイルをアップロードすることはできません。ファイルに構文エラーがある場合、ファイルをアップロードできません。
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックして設定の変更を保存し、エージェントに適用します。
- ステップ 8** 次の選択肢があります。
- ログメッセージを表示したり、ロギングを設定したりするには、[ログ (Logs)] タブを選択します。詳細については、[ユーザエージェントのロギング設定の構成 \(2-31 ページ\)](#) を参照してください。
  - エージェントを設定する場合は、[表 2-1 \(2-23 ページ\)](#) で説明されているいずれかの操作を実行します。
- 

## ユーザエージェントのロギング設定の構成

[ログ (Logs)] タブには、エージェントによってログに記録されたステータスメッセージが最大 250 件表示されます。エージェントは、次のイベントが発生したときにステータスメッセージをローカル イベント ログに記録します。

- エージェントが Active Directory サーバからのデータのポーリングに成功した。
- エージェントが Active Directory サーバへの接続に失敗した。
- エージェントが Active Directory サーバからのデータ取得に失敗した。
- エージェントが Management Center への接続に成功した。
- エージェントが Management Center への接続に失敗した。

エージェントは、タイムスタンプおよび重大度レベルとともに各ステータス メッセージをログに記録します。次の表に、重大度のレベルを低い方から順に示します。

表 2-3 ユーザエージェントのログの重大度レベル

| レベル  | カラー | 説明                                                       |
|------|-----|----------------------------------------------------------|
| デバッグ | グレー | このイベントは、デバッグのためにログに記録されます。<br>これらのメッセージは、デフォルトでは表示されません。 |
| 情報   | 緑色  | このイベントは、エージェントの通常の動作と一致します。                              |
| 警告   | 黄色  | これは予期しないイベントですが、エージェントの通常の動作は必ずしも中断されません。                |
| エラー  | 赤色  | これは予期しないイベントであり、エージェントの通常の動作は中断されます。                     |

エージェントはローカル イベント ログに加えて Windows アプリケーション ログにもステータス メッセージを記録できます。エージェントは、ローカル イベント ログの内容をコンマ区切り値 (CSV) ファイルにエクスポートすることもできます。

ステータス メッセージを保存するかどうかや、ステータス メッセージの保存期間を設定したり、すべてのステータス メッセージのイベント ログをクリアしたりできます。また、デバッグ ステータス メッセージの表示や [メンテナンス (Maintenance)] タブへのアクセスなどのメンテナンス オプションも設定できます。



注

デバッグ ステータス メッセージは、7 日間保存された後、イベント ログから削除されます。ステータス メッセージの保存期間を設定したり、イベント ログをクリアしたりしても、デバッグ ステータス メッセージの保存には影響しません。

ユーザエージェントのログ設定を構成するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 必要に応じて、ユーザエージェントがインストールされているコンピュータにログインします。
- ステップ 2 [スタート (Start)] > [(すべての) プログラム ((All Programs))] > [Cisco] > [Cisco Firepower Agent for Active Directory] の設定 (Configure Cisco Firepower Agent for Active Directory) をクリックします。
- ステップ 3 [ログ (Logs)] タブをクリックします。
- ステップ 4 Cisco TAC から指示された場合は、イベント ログ内のデバッグ ステータス メッセージを表示するために [ログ内のデバッグ メッセージを表示 (Show Debug Messages in Log)] を選択し、[メンテナンス (Maintenance)] タブを有効にしますページ。



注

このオプションは、Cisco TAC から使用を推奨された場合のみ選択してください。

- ステップ 5 Windows アプリケーション ログとローカル イベント ログの両方にデバッグ以外のステータス メッセージを記録するには、[Windows アプリケーション ログにメッセージを記録 (Log Messages to Windows Application Log)] を選択します。  
Windows アプリケーション ログを表示するには、Windows イベント ビューアを開きます。
- ステップ 6 ステータス メッセージがローカル イベント ログに保存されてから自動的に削除されるまでの期間を設定するには、[メッセージのキャッシュ サイズ (Message Cache Size)] ドロップダウン リストから期間を選択します。



ローカル イベント ログに記録されたステータス メッセージは、[メッセージのキャッシュ サイズ(Message Cache Size)] ドロップダウン リストで選択された期間だけ保存された後、削除されます。



**注** [メッセージのキャッシュ サイズ(Message Cache Size)] の設定は、ローカル イベント ログにのみ影響し、[Windows アプリケーション ログにメッセージを記録(Log Messages to Windows Application Log)] を選択した場合でも Windows アプリケーション ログには影響しません。

- ステップ 7** 最後の更新後にログに記録された新しいステータス メッセージを表示するには、[更新(Refresh)] をクリックします。
- 最後の更新後に新しいステータス メッセージがログに記録された場合は、新しいステータス メッセージがあることを示すメッセージが表示されます。更新の結果 250 件を超えるメッセージが表示される場合、最も古いステータス メッセージが [ログ(Logs)] タブ ページから削除されます。250 件を超えるメッセージを表示するには、ログをエクスポートします。詳細については、ステップ 8 を参照してください。
- ステップ 8** ローカル イベント ログの内容をコンマ区切り値(CSV) ファイルにエクスポートするには、[ログのエクスポート(Export Logs)] をクリックします。
- コンマ区切り値(CSV) ファイルには、すべてのイベント ログ ステータス メッセージとデバッグ メッセージが格納されます。
- ステップ 9** ローカル イベント ログからデバッグ以外のすべてのステータス メッセージを削除するには、[イベント ログのクリア(Clear Event Log)] をクリックします。
- エージェントがメッセージを削除したことを示すステータス メッセージを除き、ローカル イベントがクリアされます。
- ステップ 10** 設定の変更を保存してエージェントに適用するには、[保存(Save)] をクリックします。
- ステップ 11** 次の選択肢があります。
- エージェントの全般的な設定を構成するには、[全般(General)] タブを選択します。詳細については、[ユーザエージェントの全般的な設定の構成\(2-33 ページ\)](#) を参照してください。
  - エージェントを設定する場合は、[表 2-1\(2-23 ページ\)](#) で説明されているいずれかの操作を実行します。

## ユーザエージェントの全般的な設定の構成

[全般(General)] タブには、ユーザエージェントの基本設定が含まれています。エージェントがログイン データを報告するときに Management Center に報告されるエージェント名を変更できます。また、エージェント サービスの開始と停止、ログオフ チェックの頻度の変更、および現在のサービス ステータスの表示もできます。

ユーザエージェントの全般的な設定を構成するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** エージェントがインストールされているコンピュータで、[スタート(Start)] > [プログラム(Programs)] > [Cisco] > [Active Directory 用の Cisco FirePOWER ユーザエージェントの設定(Configure Cisco Firepower User Agent for Active Directory)] を選択します。
- ステップ 2** エージェント サービスを開始するには、開始ボタン(▶) をクリックします。
- ステップ 3** エージェント サービスを停止するには、停止ボタン(■) をクリックします。

- ステップ 4 (オプション)[エージェント名 (Agent Name)] でエージェント名を変更します。デフォルトのエージェント名は Cisco FUAfAD です。文字、数字、下線(\_)、およびハイフン(-)を入力できます。
- ステップ 5 (オプション)エージェントがログオフ データを確認する頻度を変更し、[ログアウト確認頻度 (Logout Check Frequency)] リストから期間を選択します。ログオフ データのチェックを無効にするには、0 を選択します。
- ステップ 6 (オプション)エージェントのスケジュールの優先度を変更するには、[優先度 (Priority)] リストからレベルを選択します。エージェントが大量のユーザアクティビティをモニタして取得し、パフォーマンスに影響を与えている場合のみ、[高 (High)] を選択します。
- ステップ 7 設定を保存するには、[保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 8 エージェントを設定する場合は、表 2-1(2-23 ページ) で説明されているいずれかの操作を実行します。
-

## ユーザエージェントのメンテナンス設定の構成

エージェントは、構成設定に加えて、ユーザと IP アドレスのマッピング情報、ローカル イベント ログ、およびレポート状態情報を SQL CE データベースに保存します。エージェントの [メンテナンス (Maintenance)] タブでは、メンテナンスのためにデータベースの一部をクリアできます。キャッシュされているユーザと IP アドレスのマッピング情報およびローカル イベント ログ情報をクリアできます。レポート状態のキャッシュもクリアできますが、その場合は、設定された Active Directory サーバの手動ポーリングが強制実行されます。

**注意**

サポートから指示されないかぎり、[メンテナンス (Maintenance)] タブ ページの設定は変更しないでください。

ユーザエージェントのメンテナンス設定を構成するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** エージェントがインストールされているコンピュータで、[スタート (Start)] > [プログラム (Programs)] > [Cisco] > [Active Directory 用の Cisco FirePOWER ユーザエージェントの設定 (Configure Cisco Firepower User Agent for Active Directory)] を選択します。
- ステップ 2** [ログ (Logs)] タブをクリックします。
- ステップ 3** [ログ内のデバッグ メッセージを表示 (Show Debug Messages in Log)] をクリックして [メンテナンス (Maintenance)] タブを有効にします。
- ステップ 4** [メンテナンス (Maintenance)] タブをクリックします。
- ステップ 5** 保存されているすべてのユーザと IP アドレスのマッピング データをクリアするには、[ユーザ マッピング データ キャッシュをクリア (Clear user mapping data cache)] をクリックします。  
エージェントのローカル データベースから、保存されているすべてのユーザと IP アドレスのマッピング データが削除されます。エージェントのローカル データベースをクリアしても、Management Center のデータベースに保存されているユーザと IP アドレスのマッピング データは影響を受けません。
- ステップ 6** 保存されているすべてのログイン イベント データをクリアするには、[ログオン イベント ログ キャッシュをクリア (Clear logon event log cache)] をクリックします。
- ステップ 7** エージェントが設定済みの Management Center にログインおよびログオフ情報を最後に報告した時間に関するデータをクリアするには、[レポート ステート キャッシュをクリア (Clear reporting state cache)] をクリックします。  
エージェントは設定済みの Management Center にログインおよびログオフ情報を最後に報告した時間に関するすべての情報を削除します。次のポーリング間隔の開始時に、エージェントは設定されたすべての Active Directory サーバを手動でポーリングし、[Active Directory サーバの最大ポーリング時間 (Active Directory Server Max Poll Length)] フィールドで定義された期間内の情報を取得します。詳細については、[ユーザエージェントの Active Directory サーバ接続の設定 \(2-24 ページ\)](#)を参照してください。
- ステップ 8** ログに記録されるデバッグ メッセージの詳細レベルを設定するには、[デバッグログレベル (Debug Log Level)] リストからロギングの詳細レベルを選択します。
- ステップ 9** エージェントを設定する場合は、[表 2-1 \(2-23 ページ\)](#)で説明されているいずれかの操作を実行します。

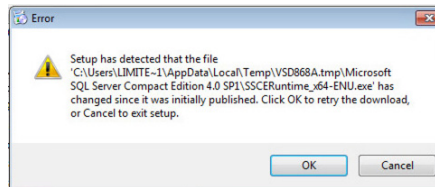
## ユーザーエージェントのトラブルシューティング

続くいくつかのセクションでは、ユーザーエージェントの使用時に発生する可能性がある問題の解決策について説明します。

- [ユーザーエージェントをインストールできない\(2-36 ページ\)](#)
- [Management Center に接続できない\(2-37 ページ\)](#)
- [ユーザーエージェントが応答しない\(2-39 ページ\)](#)
- [ユーザーエージェントが一部のログインを表示しない\(2-40 ページ\)](#)
- [ユーザーエージェントがサイレントに Active Directory に接続できない\(2-40 ページ\)](#)
- [ユーザーエージェントがリアルタイム イベントを処理しない\(2-41 ページ\)](#)
- [ユーザーエージェントにユーザ ログオフ イベントが表示されない\(2-41 ページ\)](#)
- [同じネットワーク内のユーザーエージェントと TS エージェント\(2-42 ページ\)](#)
- [エラー 1001: サービス AgentService を開始できません\(2-42 ページ\)](#)
- [インストール エラー System.IO.FileNotFoundException\(2-42 ページ\)](#)

### ユーザーエージェントをインストールできない

ユーザーエージェントのインストール時に、Microsoft SQL Server Compact Edition に関連するエラーが表示される場合があります。



エラーのテキストは次のようになります。

```
SSCERuntime_x64-ENU.exe has changed since it was initially published. Click OK to
retry the download, or click Cancel to exit setup
```

この問題を解決するには、次の手順を実行します。

- 
- ステップ 1 [キャンセル(Cancel)] をクリックしてセットアップを終了します。
  - ステップ 2 Microsoft サイトから [Microsoft SQL Server Compact Edition 4.0 \(SP1 x64 ビット\)](#) をダウンロードしてインストールします。
  - ステップ 3 [ユーザーエージェントのインストール\(2-21 ページ\)](#) の説明に従ってセットアップを再度実行し、`setup.exe` ではなく `setup.msi` を実行します。

## Management Center に接続できない

このセクションでは、ユーザエージェントの Firepower Management Center への接続を妨げる可能性のある次の問題について説明します。

- ユーザエージェントがアイデンティティソースではない(2-37 ページ)
- 不正な Windows の暗号(2-37 ページ)
- DNS サーバが使用できない(2-39 ページ)

### ユーザエージェントがアイデンティティソースではない

ユーザエージェントの [Firepower Management Centers] タブ ページで、Management Center のステータスが [使用不可(unavailable)] である場合は、Management Center でアイデンティティソースとしてユーザエージェントを追加したことを確認してください。ユーザエージェント設定の詳細については、[コンフィギュレーションガイド](#)を参照してください。

バージョン 6.X の Management Center でユーザエージェントアイデンティティソースを確認するには、次の手順を実行します。

- 
- ステップ 1 管理者として Management Center にログインします。
  - ステップ 2 [システム(System)] > [統合(Integration)] をクリックします。
  - ステップ 3 [アイデンティティの送信元(Identity Sources)] タブをクリックします。
  - ステップ 4 [ユーザエージェント(User Agent)] をクリックします。
  - ステップ 5 ユーザエージェントが定義されていることを確認し、その IP アドレスを確認します。何らかの変更を行った場合は、[保存(Save)] をクリックします。
  - ステップ 6 ユーザエージェントの [Firepower Management Centers] タブ ページで Management Center のステータスを再度確認します。
- 

Management Center が正しく設定されていて、それでも接続できない場合は、次のことを試してみます。

- ユーザエージェントで設定した Management Center のホスト名または IP アドレスを再確認します。
- Management Center にホスト名でアクセスしている場合は、`nslookup hostname` コマンドを使用して、ホスト名が IP アドレスに解決されることを確認します。
- Management Center に IP アドレスでアクセスする場合、`ping ip-address` コマンドを使用して、それがユーザエージェントのコンピュータでアクセス可能であることを確認します。

### 不正な Windows の暗号

ユーザエージェントがインストールされている Windows マシンに適切な暗号がインストールされていない場合は、次の現象が発生します。

- ユーザエージェントは、ユーザエージェントの [Firepower Management Center] タブ ページで、Firepower management Center を [使用不可(unavailable)] として表示します。
- Firepower Management Center は、Active Directory ドメイン コントローラからユーザとグループをダウンロードできます。

この状況は比較的まれで、Windows マシンの暗号を制限している場合にのみ適用されます。

使用可能な暗号のリストを表示するには、次のようにします。

- 
- ステップ 1 ユーザ エージェント マシンにログインします。
  - ステップ 2 コマンド プロンプトで、`gpedit.msc` と入力し、Enter キーを押します。
  - ステップ 3 [コンピュータの設定 (Computer Configuration)] > [管理用テンプレート (Administrative Templates)] > [ネットワーク (Network)] > [SSL構成設定 (SSL Configuration Settings)] の順にクリックします。
  - ステップ 4 [SSL構成設定 (SSL Configuration Settings)] で、[SSL暗号スイートの順位 (SSL Cipher Suite Order)] を選択します。
  - ステップ 5 暗号リストを設定して、次のセクションに示す 1 つ以上の暗号を含めます。
- 

### Firepower Management Center でサポートされている暗号

Firepower Management Center は、ユーザ エージェントと接続するために次の暗号をサポートしています。暗号は OpenSSL 形式で示されています。Windows の暗号は通常、RFC 形式で記載されています。暗号名を変換するには、<https://testssl.sh> サイトの『[RFC mapping list](#)』を参照してください。



#### 注意

すべての暗号が安全なわけではないため、どの暗号を選択するかを決定する際には注意してください。安全な暗号の詳細については、Open Web Application Security Project (OWASP) などのリソースを参照してください。たとえば、『[TLS Cipher String Cheat Sheet](#)』などを参照できます。

サポート対象の暗号方式は次のとおりです。

```
AES256-GCM-SHA384
AES256-SHA
AES256-SHA256
CAMELLIA256-SHA
DES-CBC3-SHA
ECDH-ECDSA-AES256-GCM-SHA384
ECDH-ECDSA-AES256-SHA
ECDH-ECDSA-AES256-SHA384
ECDH-ECDSA-DES-CBC3-SHA
ECDH-RSA-AES256-GCM-SHA384
ECDH-RSA-AES256-SHA
ECDH-RSA-AES256-SHA384
ECDH-RSA-DES-CBC3-SHA
ECDHE-ECDSA-AES128-GCM-SHA256
ECDHE-ECDSA-AES128-SHA
ECDHE-ECDSA-AES128-SHA256
ECDHE-ECDSA-AES256-GCM-SHA384
ECDHE-ECDSA-AES256-SHA
ECDHE-ECDSA-AES256-SHA384
ECDHE-ECDSA-DES-CBC3-SHA
ECDHE-RSA-AES128-GCM-SHA256
```

```
ECDHE-RSA-AES128-SHA
ECDHE-RSA-AES128-SHA256
ECDHE-RSA-AES256-GCM-SHA384
ECDHE-RSA-AES256-SHA
ECDHE-RSA-AES256-SHA384
ECDHE-RSA-DES-CBC3-SHA
EDH-DSS-DES-CBC3-SHA
EDH-RSA-DES-CBC3-SHA
PSK-3DES-EDE-CBC-SHA
PSK-AES256-CBC-SHA
SRP-DSS-3DES-EDE-CBC-SHA
SRP-DSS-AES-128-CBC-SHA
SRP-DSS-AES-256-CBC-SHA
SRP-RSA-3DES-EDE-CBC-SHA
SRP-RSA-AES-128-CBC-SHA
SRP-RSA-AES-256-CBC-SHA
```

## DNS サーバが使用できない

ホスト名を使用してユーザエージェントのアイデンティティソースを設定した場合は、FMC のホスト名を解決して接続するために使用可能な DNS サーバが存在する必要があります。ホスト名を確認し、FMC でホスト名を解決できるかどうかを確認してから、もう一度やり直してください。

## ユーザエージェントが応答しない

ユーザエージェントからデータが送られてきていないと思われる場合は、次のいずれかの操作を行うことができます。

- ユーザエージェントのコンピュータにログインし、そのステータスを確認します。詳細については、[ユーザエージェントの全般的な設定の構成 \(2-33 ページ\)](#) を参照してください。
- **Management Center** でユーザエージェントの正常性ポリシーをセットアップして、そのステータスをモニタします。これについては続く手順で説明しています。


ユーザエージェントの正常性ポリシーにより、**Management Center** がユーザエージェントからハートビートを受信しない場合には通知が出されません。詳細については、[コンフィギュレーションガイド](#) を参照してください。

**6.X の Management Center** でユーザエージェントの正常性ポリシーを設定するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** **Management Center** に、管理者特権またはメンテナンス ユーザ権限を持つユーザとしてログインします。
- ステップ 2** [システム (System)] > [正常性 (Health)] > [ポリシー (Policy)] をクリックします。
- ステップ 3** [ポリシーの作成 (Create Policy)] をクリックします。
- ステップ 4** [ポリシーの作成 (Create Policy)] タブで、次の情報を入力します。
  - [ポリシーのコピー (Copy Policy)] リスト。デフォルトの正常性ポリシーなどの任意のポリシーを選択します。

- [新規ポリシー名 (New Policy Name)] フィールド: このポリシーを識別する名前を入力します。
- [新規ポリシーの説明 (New Policy Description)] フィールド: オプションのポリシーの説明を入力します。


新規ポリシーが表示されます。

**ステップ 5**  (編集) をクリックします。


**ステップ 6** 左側の列で、[ユーザーエージェントのステータス モニタ (User Agent Status Monitor)] をクリックします。

**ステップ 7** 右側の列で、[オン (On)] をクリックします。

**ステップ 8** ページの下部で、[ポリシーを保存して終了 (Save Policy and Exit)] をクリックします。

**ステップ 9** ポリシー名の横にある  (適用) をクリックします。

**ステップ 10** 画面の指示に従って、管理対象デバイスにポリシーを適用します。

**ステップ 11** 任意の時点でユーザーエージェントをモニタするには、[正常性 (Health)] > [モニタ (Monitor)] をクリックするか、または Management Center の  (モニタ) アイコンに表示されるメッセージを監視します。

ユーザーエージェント ハートビートが管理対象デバイスによって検出されない場合、次のようなメッセージが表示されます。

一部のユーザーエージェントが最新ではありません (Some user agents are not up-to-date)

## ユーザーエージェントが一部のログインを表示しない

ユーザーエージェントは、IP アドレスごとにユーザ名を追跡します。同じユーザが同じ IP アドレスに複数回ログインするとしても、そのユーザのユーザ ログイン イベントが Management Center に表示されるのは 1 回のみです。

次のシナリオは、1 ユーザによる複数回のユーザ ログイン イベントを示しています。

- ユーザが別々の IP アドレス (デスクトップと携帯電話など) からログインする。
- ユーザ `patricia.nolan` が次の IP アドレスから並びの順序どおりログインする。
  - 192.0.2.102
  - 192.0.2.210
  - 192.0.2.102

`patricia.nolan` がいずれかの IP アドレスからログアウトしても問題ありません。

Management Center は固有の IP アドレスごとに 1 つずつ、少なくとも 2 つのログイン イベントを報告します (言い替えると、Management Center は最後のログインを、それが最初のものと同じ IP アドレスからであるため報告しません)。

## ユーザーエージェントがサイレントに Active Directory に接続できない

Active Directory サーバーのユーザー名またはパスワードを誤って入力した場合、またはユーザーエージェントソフトウェアに Active Directory サーバーに対する十分な権限がない場合、接続はサイレントに失敗します。これを確認する唯一の方法は、ユーザーエージェントログを確認することです ([ログ (Logs)] タブページ)。



詳細については、以下を参照してください。

- ユーザーエージェントの権限について: [ユーザ権限の付与\(2-9 ページ\)](#)
- ユーザーエージェントログについて: [ユーザエージェントのロギング設定の構成\(2-31 ページ\)](#)

## ユーザーエージェントがリアルタイムイベントを処理しない

リアルタイムイベントを Active Directory サーバから処理できるようにするために、ユーザーエージェントは、Active Directory サーバへのリモートプロシージャコール(RPC)アクセスを必要とします。延長期間のリアルタイム処理のステータスが、ユーザーエージェントの [Active Directory サーバ(Active Directory Servers)] タブ ページで unknown または unavailable と表示される場合、ユーザーエージェントログでエラーを探して、このセクションで説明されている他の提案を試してみてください。

リアルタイム処理の問題をトラブルシューティングするには、次の手順を実行します。

- 
- ステップ 1 必要に応じて、ユーザーエージェントがインストールされているコンピュータにログインします。
  - ステップ 2 [スタート(Start)] > [(すべての)プログラム((All) Programs)] > [Cisco] > [Cisco Firepower Agent for Active Directory の設定 (Configure Cisco Firepower Agent for Active Directory)] をクリックします
  - ステップ 3 [ログ(Logs)] タブをクリックします。
  - ステップ 4 [ログ内のデバッグメッセージを表示 (Show debug messages in log)] をオンにします。
  - ステップ 5 ログメッセージを確認して、[ログのエクスポート (Export logs)] をクリックし、ログメッセージをファイルにエクスポートします。
  - ステップ 6 次のようなメッセージを見つけます。  
「エラー”, “[2317] - イベント リスナーをホストまたは IP アドレスに接続できません。(“error”, “[2317] - Unable to attach event listener to host or IP address.)AD サーバのファイアウォール設定を確認してください。(Check firewall settings on AD server.)RPC サーバは使用できません。(RPC server is unavailable.)」  
上記のメッセージは、Active Directory サーバのファイアウォールの設定に問題があることを示しています。[ユーザーエージェントに分散コンポーネントオブジェクト管理\(DCOM\)へのアクセスを許可する\(2-14 ページ\)](#)に記載されている手順を確認して、もう一度やり直してください。  
ファイアウォールを問題箇所として分離するには、必要に応じて Active Directory サーバのファイアウォールを数分間無効にして、ユーザーエージェントがリアルタイムイベントを処理できるかどうかを確認してください。
  - ステップ 7 ユーザーエージェントで Active Directory サーバ構成の削除と再追加を試行してください。
- 

## ユーザーエージェントにユーザログオフイベントが表示されない

Management Center でユーザログオフイベントが表示されない場合は、WMI にすべてのドメインコンピュータ上のファイアウォールの通過を許可していることを確認します。詳細については、[ドメインコンピュータの設定\(2-6 ページ\)](#)を参照してください。

## 同じネットワーク内のユーザエージェントと TS エージェント

ターミナル サービス (TS) エージェントとユーザエージェントの両方を使用する場合、ユーザエージェントから TS エージェントの IP アドレスを除外することによって、重大ではないエラーのログを回避できます。TS エージェントとユーザエージェントの両方によって同じユーザが検出されると、重大ではないエラーがログに書き込まれます。

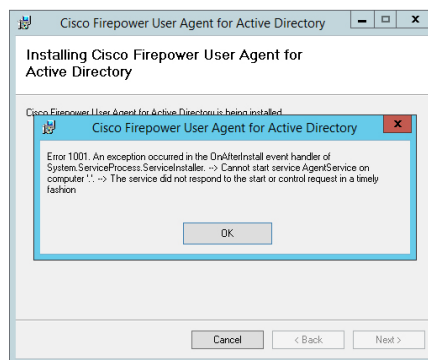
詳細については、[ユーザエージェントの除外アドレス設定の構成 \(2-30 ページ\)](#) を参照してください。

## エラー 1001: サービス AgentService を開始できません

このエラーは、バージョン 2.4 のユーザエージェントをインストールした後にバージョン 2.3 のユーザエージェントを使用しようとした場合に表示されます。エラーは、バージョン 2.4 のユーザエージェントデータベースに、バージョン 2.3 のユーザエージェントからアクセスできないことを意味します。

この問題を解決するには、[ユーザエージェントのトラブルシューティング \(2-36 ページ\)](#) を参照してください。

下図は、エラーを示しています。



## インストールエラー System.IO.FileNotFoundException

setup.exe の代わりに setup.msi を使用してユーザエージェントをインストールすると、すべての依存関係がインストールされるわけではないため、ユーザエージェントは開始されません。次のいずれかの方法でエラーを確認できます。

- アプリケーションの起動に失敗した場合、エラーメッセージを展開すると、System.IO.FileNotFoundException が表示されます
- Windows イベント ビューアのアプリケーション ログに、ユーザエージェントに関連するエラーが表示されます

エラーを解決するには、次の手順に従います。

- 
- ステップ 1** Windows のコントロール パネルを使用して、ユーザエージェントをアンインストールします。
- ステップ 2** setup.exe を使用して、ユーザエージェントを再度インストールします。

## バージョン2.4以降のユーザエージェントをバージョン2.3に置き換える

問題が発生しユーザエージェントバージョン2.4以降を使用できない場合は、この項で説明する手動交換方法を使用してバージョン2.3に戻すことができます。



注

この手順により、ユーザエージェント設定が削除されます。バージョン2.3のユーザエージェントをインストールした後、ユーザエージェントを再度設定する必要があります。

バージョン2.4をバージョン2.3に置き換えるには、次の手順に従います。

- ステップ 1 Windows コントロールパネルの [プログラムと機能(Programs and Features)] アプリケーションを使用して、ユーザエージェントをアンインストールします。
- ステップ 2 c:\ から次のファイルを手動で削除します。
  - CiscoUserAgent.sdf
  - UserAgentEncryptionBytes.bin
- ステップ 3 [User Agent バージョン 2.3](#) (Cisco\_Firepower\_User\_Agent\_for\_Active\_Directory\_2.3-10.zip) をインストールします。

■ バージョン2.4以降のユーザエージェントをバージョン2.3に置き換える